

造型	同六時
透視畫法	同二時
歷史	同二時
美學及美術史	同二時
和漢文	同二時
理科及數學	同四時
專修科	
繪畫科	
第一年	
古畫臨摸	每週六時
寫生	同十一時
新案	同六時
美術解剖	同二時

透視畫法	同二時
美學及美術史	同三時
歷史及古物學	同二時
和漢文	同二時
第二年	
古畫臨摸	每週六時
寫生	同十時
新案	同十時
美學及美術史	同三時
歷史及古物學	同三時
材料及手訣	同一時
建築術大意	同一時
第三年	
諸學校	

新案	每週廿六時
建築裝飾法	同六時
彫刻物彩色法	同二時
彫刻科	
第一年	
古製模造	每週五時
寫生	同十時
新案	同六時
圖案	同二時
美術解剖	同四時
美學及美術史	同三時
歷史及古物學	同二時
和漢文	同二時

第二年

古製模造	每週四時
寫生	同八時
新案	同八時
圖案	同二時
美學及美術史	同三時
歷史及古物學	同二時
材料及手訣	同四時
彫刻彩色法	同二時
建築術大意	同一時

第三年

新案	每週廿八時
建築裝飾術	同六時
諸學校	

圖案科

第一年

圖案	每週十時
寫生及古畫臨摸	同九時
造型	同六時
器物論	同一時
材料論	同二時
建築術大意	同一時
美學及美術史	同三時
和漢文	同二時
第二年	
特種工藝圖案	每週十二時
工場實習	同二十時

美學及美術史 同二時

第三年

特種工藝圖案 每週十二時
 工藝實習 同廿二時

學年學期及休業規程

第一條 學年ハ九月十一日ニ始マリ七月十日ニ終ル學年ヲ二學期ニ分チ第一學期ハ九月十一日ヨリ二月十五日ニ至リ第二學期ハ二月二十三日ヨリ七月十日ニ至ル

第二條 休業ハ十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ルニ週間二月十六日ヨリ同月二十三日ニ至ルニ週間七月十一日ヨリ九月十日ニ至ルニ箇月トシ日曜日及左ノ祭日祝日ハ休業ス

- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭

諸學校

- 一 天長節
- 一 新嘗祭
- 一 孝明天皇祭
- 一 紀元節
- 一 春季皇靈祭
- 一 神武天皇祭

第三條 授業ハ十一月一日ヨリ三月三十一日マテ午前八時三十分ヨリ始メ四月一日ヨリ十月三十一日マテ午前八時ヨリ始ム

入學在學及退學規程

- 第一條 入學ノ期ハ每學年ノ始メトス但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第二條 普通科生徒ハ各府縣ヨリ募集シ本校ニ於テ入學試験ヲ受クル者ト府縣廳ノ特選ニ係ルモノトノ二種トス
- 第三條 普通科へ入學スル生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十五年以下トシ品行善良

身體強健ニシテ本校ニ於テ入學試験ヲ受クヘキ者ハ左ニ掲クル科目ニ合格スルモノトス

入學試験科目

- (一) 讀書及作文 漢字交リ文
- (二) 算術 全體
- (三) 日本歴史 大要
- (四) 臨畫
- (五) 圖案若クハ彫刻模造

第四條 府縣廳ノ特選ニ係ル者ハ同廳ニ於テ美術上ニ望アリト認メ且入學試験科目中第一第二第三ノ課目ニ合格ノ證明ヲナスモノニシテ其第四及第五中ノ課目ニ相當スル製作物ヲ本校ニ送致スルモノトス本校ニ於テ其製作物ヲ評定シ入學ヲ許否スルモノトス

第五條 入學試験課目中第四第五ノ課目ニ於テハ其流派及材料ニ拘ハラズ之ヲ評諸學校

定シ其技能殊ニ優等ノ者ハ他ノ課目ニ合格セズト雖ドモ特ニ入學ヲ許スコトアルベシ

第六條 入學志願者ハ入學願書〔第一號書式〕ニ履歷書〔第二號書式〕ヲ添ヘテ本校書記ニ出スベシ

第七條 本校ニ於テ入學試験ヲ受クル者ハ試験料金一圓ヲ納ムヘシ但自己ノ都合ニ由リ入學試験ヲ受ケサルモ既納ノ試験料ハ返付セサルモノトス

第八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ正副保證人ト連署ノ上在學證書〔第三號書式〕ヲ出スベシ

第九條 正副保證人トモ年齡滿二十五年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ一家計ヲ立テ相當ノ身分アルモノタルヘシ

但保證人又ハ副保證人事故アリテ變更ヲ要スルトキ若クハ本文ノ資格ヲ失フトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ又正副保證人トモ三週間以上府外ニ旅行スルトキハ相當ノ代理人ヲ立テ豫メ届ケ置クヘシ

第十條 生徒疾病其他事故アリテ一日若クハ二日缺課スルトキハ其翌日保證人若クハ父兄ヨリ其旨届出ツヘシ引續キ三日以上缺課スルトキハ其事由及日限ヲ記シ當日又ハ翌日中ニ届出ツヘシ若シ病氣缺課七日以上ニ及フトキハ醫證ヲ添ヘテ差出スヘシ

第十一條 生徒若シ引續キ二學年進級スル能ハサルトキハ除名シ怠惰不行狀ノ者ハ退學ヲ命ス

第十二條 生徒疾病其他已ムテ得サル事故ニ由リ退學セントスル者ハ其事由ヲ詳記シ正副保證人連署シテ願出ツヘシ

試業及證書規程

第一條 試業ハ每學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ學期試業及平常課業ノ成績ヲ比照シ各科目ノ學期成績ヲ甲乙丙丁ノ四種ニ評定ス學年ノ終ニ於テ各課目ノ兩學期成績ヲ通計シテ乙以上ハ之ヲ進級セシム

但同課目ノ兩學期成績ノ差異ヲ通計スルニハ甲ト丙丙ト甲ハ之ヲ乙トシ乙ト

諸學校

丁丁ト乙ハ之ヲ丙トス其他ハ總テ第二學期ノ成績ニ準據シテ之ヲ通計ス例ハ
ハ甲ト丁乙ト丙ハ之ヲ丙トシ丁ト甲丙ト乙ハ之ヲ乙トス

第二條 繪畫彫刻等美術ノ實技ニ關スル課目ノ成績ハ當該教員ノ意見ヲ參酌シ本
校教員會議ニ於テ之ヲ評定ス學年ノ終ニ於テ該課目ノ成績殊ニ優等ナルモノハ
他課目ノ成績ニ乙以下ノモノアリト雖トモ進級セシムルコトアルヘシ

第三條 學期試業ニ缺席スル者ハ進級ノ格ヲ失フモノトス

但疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ缺席スル者ハ一週日以内ニ其事由ヲ詳
記シ保證人連署ノ上試業ヲ願出ツルトキハ平常課業ノ成績ヲ參酌シ之ヲ許ス
コトアルヘシ

第四條 學業及品行共ニ殊ニ優等ナル生徒ヲ選ビ之ヲ特待生トナシ證狀ヲ與ヘ一
學期若クハ一學年間ノ授業料ヲ免除ス

第五條 普通科及專修科所定ノ課程ヲ履修シ試業ヲ完了シタル者ニハ各其卒業證
書ヲ付與ス

但專修科卒業證書ヲ三種トシ卒業生中優等ノ者ニハ第一種尋常ノ者ニハ第二
種之ニ次ク者ニハ第三種ノ證書ヲ付與ス

第六條 生徒在學中ノ人物ヲ査定シ優等及尋常ノ二種トシ卒業ノ際其證書ヲ付與
ス

研究科規程

第一條 專修科卒業ノ生徒ニシテ猶其實技ヲ研究セント欲シ願出ツル者ハ適當ト
認ムル者ニ限り研究生タルヲ許スコトアルヘシ

第二條 研究生在學期限ハ二箇年以内トス

第三條 研究生ハ各自ノ志望ニヨリ特ニ某教員ノ指導ヲ受クヘキモノトス

第四條 研究生ハ自己ノ新案ヲ以テ特別ノ製作ヲナスベキモノトス每學年ノ末教
員會議ニ於テ其成績ヲ評定シ優劣ニ隨ヒ第一第二第三ノ三種ノ證狀ヲ付與ス

第五條 研究生ハ保證人ヲ要セス授業料ヲ徵集セス

第六條 研究生實技研究ノ爲メ旅行ヲ要スルハ旅費ヲ給與スルコトアルヘシ

諸學校

撰科規程

第一條 專修科中特ニ一課目若クハ數課目ヲ撰ヒテ學修セント欲シ入學ヲ願出ツル者ハ年齡滿十八年以上ニシテ當該教員ニ於テ試驗シ所撰ノ課目ヲ學修スルニ堪フルト認ムル者ニ限リ各級正科生ニ缺員アルハ撰科生トシテ入學ヲ許ス但和漢文歴史等ハ之ヲ撰フコトヲ得ス

第二條 撰科生ハ所撰ノ課目ニ就テ正科生ト同シク試業ヲ受ケ合格ノ者ハ願ニ依リ證狀ヲ與フルコトアルヘシ

第三條 入學及授業料其他ノ規程ハ正科生ト同シク遵守スヘキモノトス
授業料及其他ノ費用

第一條 授業料ハ一箇月金一圓トス該金額ハ毎月ノ始メ定日ニ於テ本校會計員ニ納ムヘシ

但夏期休業二箇月間ハ授業料ヲ徴收セス

第二條 教科用ノ圖書繪畫彫刻用ノ小道具及繪具紙等ハ總テ生徒ノ自辨トス

但實技上重要ノ器具等ハ本校ヨリ之ヲ貸付ス

第一號書式

入學願書〔用紙美濃紙二ツ折〕

私儀御校ニ入學仕度履歷書相添此段相願候也

宿所

本籍族〔月主ニアラサレハ〕
〔某子弟等〕

年 月 日

姓

名 印

何年何月生

東京美術學校長某殿

第二號書式

履歷書〔用紙美濃紙二ツ折〕

一何年何月何地何立何學校ニ入り又ハ教師某ニ就キ何年間何學修業云々
一何年何月何地ニ於テ何年間何業ニ從事云々

踏學校

百八十一

一何年何月何所ニ於テ何事ニ付賞罰ヲ受クル等
一家業何々
右之通有之候也

本籍族〔月主ニアラサレハ〕
某子弟等
年 月 日
姓 名
何年何月生

第三號書式

在學證書〔用紙美濃
紙ニツ折〕

私儀今般入學御許可相成候ニ付在學中御規則等固ク相守リ勤學可仕候依テ右證
書如斯候也

宿 所
本籍族〔月主ニアラサレハ〕
某子弟等
年 月 日
姓 名
印

東京美術學校長某殿

右ノ者從來品行善良ノモノニテ前文之趣相違無之候ニ付私共保證人ニ相立テ平
常本人ノ品行等監督可致ハ勿論在學中ニ係ル事件ハ一切引受可申候依テ右保證
候也

但轉居改印等有之節ハ速ニ御届可致候也

宿 所
本籍族職業
年 月 日
保證人 姓 名 印
何年何月生

同上

副保證人 姓 名 印
同 上

○第七節 東京音樂學校官制

明治二十年十月五日勅令第〔節〕
五十一號同年同月六日布告〔取〕

附學校

朕東京音樂學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京音樂學校官制

第一條 東京音樂學校ニ左ノ職員ヲ置ク
學校長

奏任自一等至三等

教頭 奏任自一等至四等

教諭 奏任自一等至六等

幹事 奏任自四等至六等

助教諭 判任

舍監 判任

訓導 判任

第二條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ
統督ス

第三條 教頭ハ教諭ヨリ之ニ兼任ス

教頭ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持ス

ルコトヲ掌ル

第四條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第五條 教諭助教諭訓導ノ員數ハ其學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ

應シテ之ヲ定ム

第十三項 音樂取調掛ヲ東京音樂學校ト改稱 明治二十年十月五日文

部省告示第九號取

音樂取調掛ヲ東京音樂學校ト改稱ス

第八節 東京盲啞學校官制 明治二十年十月五日勅令第九號取
五十一號同年同月六日布告取

朕東京盲啞學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京盲啞學校官制

第一條 東京盲啞學校ニ左ノ職員ヲ置ク

諸學校

學校長

奏任自一等至二等

教頭

奏任自一等至四等

教諭

奏任自一等至六等

幹事

奏任自四等至六等

助教諭

判任

舍監

判任

訓導

判任

第二條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ

統督ス

第三條 教頭ハ教諭ヨリ之ニ兼任ス

教頭ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持ス

ルコトヲ掌ル

第四條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第五條 教諭助教諭訓導ノ員數ハ其學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ

應シテ之ヲ定ム

○第十四項 訓盲啞院ヲ盲啞學校ト改稱

明治二十年十月五日
文部省告示第九號

〔節取〕

訓盲啞院ヲ盲啞學校ト改稱ス

○第九節 華族就學規則改正

明治二十年一月四日
宮内省達第壹號華族

華族就學規則左ノ通改正ス

華族就學規則

第一條 華族男子ノ學齡ハ滿六年以上滿二十二年以下トス

第二條 華族男子ニシテ學齡ニ當ル者ハ學習院ニ入學シ一定ノ

學科ヲ修ムヘシ

第三條 中學科以上ノ生徒ハ學習院ニ寄宿スヘシ但疾病又ハ正

諸學校

當ノ事故ニ因リ寄宿スルコト能ハサル者ハ學習院長ノ許可ヲ經テ通學スルコトヲ得

第四條 東京住居ノ學齡者ニシテ滿六年以上十年未滿ノ者正當ノ事由アリテ學習院ニ入學スルコト能ハサルトキハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ他ノ小學校ニ入學シ小學尋常科ヲ修ムルコトヲ得

第五條 地方住居ノ學齡者ニシテ滿六年以上十二年未滿ノ者學習院ニ入學スルコト能ハサルトキハ其地方ノ小學校ニ入學シ小學尋常科若クハ中學豫備ノ小學課程ヲ修ムルコトヲ得

第六條 學齡者ニシテ第四條第五條ニ依リ未タ學習院ニ入ラサル者該條規定ノ年齡以外ニ至リ疾病ノ爲メ正當ノ教育ニ堪ヘサルカ或ハ正當ノ事故ニ依リ遠ク其家ヲ離ル、コト能ハサル者アルトキハ宮内大臣ニ出願シ許可ヲ經テ學習院外ノ學校ニ

於テ修學スルコトヲ得

第七條 學齡者疾病ニ因リ學習院若クハ他ノ學校ニ入學スルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ宮内大臣ニ出願シ許可ヲ得ヘシ

第八條 學習院生徒ニシテ陸海軍ノ學校ニ入學セント欲スル者ハ學習院長ノ許可ヲ經テ其召募ニ應スヘシ

第九條 學習院中學科以上ノ生徒ニシテ學習院本科並ニ陸海軍學校ニ入ルノ外適當ノ專門學校ニ入ルノ志アル者ハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ入學スルコトヲ得

第十條 事故アリテ未タ學習院ニ入ラサル者ト雖モ宮内大臣ノ許可ヲ經テ陸海軍學校若クハ他ノ專門學校ノ召募ニ應シ其入學試験ニ合格シタルトキハ直チニ該學校ニ入ルコトヲ得

第十一條 左ノ各項ニ該當スル者ハ宮内大臣ノ許可ヲ經テ學習

諸學校

院ヲ退學スルコトヲ得

- 一 任官ニ因リ修學ノ餘暇ナキ者
- 一 疾病ニ罹リ成學ノ目的ナキ者
- 一 正當ノ事故ニ因リ他府縣下ニ轉住又ハ歸住セサルヲ得サル者

第十二條 左ノ各項ニ該當スル者ハ學習院長ノ承認ヲ經テ學習院ヲ退學スルコトヲ得

- 一 海外留學ノ許可ヲ得タル者
- 一 第八條第九條ノ手續ヲ經テ入學試験ニ合格シタル者
- 一 學齡ヲ超過シタル者

第十三條 學齡者ニシテ海外留學ヲ志スカ又ハ陸海軍學校ヲ除クノ外他ノ專門學校ニ入ルノ目的ヲ以其豫備ヲ爲サンカ爲メ適當ノ學校又ハ教師ニ就キ修學センコトヲ望ム者ハ學習院生

徒ハ學習院長ニ其他ハ宮内大臣ニ出願スヘシ宮内大臣及學習院長ハ正當ノ事由アリト認ムルトキハ年月ヲ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 第十三條ノ許可ヲ受ケタル者ハ學習院生徒タルト否トニ拘ラヌ學業上總テ學習院長ノ監督ヲ受クヘシ學習院長ハ適宜ノ方法ニ依リ其學力ノ進度ヲ查察シ進歩ノ效ナシト認ムルトキハ期限内ト雖モ再ヒ學習院ノ課業ニ就カシメ又ハ宮内大臣ニ上申スヘシ

第十五條 學習院及他ノ學校ニ在學ノ生徒ニシテ疾病ヲ除クノ外三週日以上ニ涉リ私ノ事故ヲ以テ課業ヲ缺クコトアルトキハ學習院生徒ハ學習院長ニ其他ハ宮内大臣ニ出願スヘシ宮内大臣及學習院長ハ正當ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ

第十六條 學齡者ニシテ學習院ニ於テ修學セズ他ノ學校或ハ他ノ教師ニ就テ修學スル者及海外ニ留學スル者ハ每學期其修業シタル課程ヲ記載シ「華族局」長官及學習院長ニ届出ヘシ

第十七條 學齡ニ至リ故ナク學ニ就カサル者或ハ學ニ就クノ後修業ヲ怠ル者アルトキハ宮内大臣ハ「華族局」長官ヲシテ其戶主又ハ後見人ヲ督責セシム

第十八條 許可ヲ得テ他ノ小學校等ニ就學スル者ハ宮内大臣時宜ニ因リ相當ノ官員ヲ派遣シ修學ノ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第十九條 學齡者ノ就學未就學ニ關スル事項及其督責獎勵等ニ關スル事務ハ「華族局」ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第二十條 「華族局」長官ハ毎年兩度一月八月ニ於テ來學期度華族ノ男子就學年齡ノ者ヲ取調ヘ其名簿ヲ作り宮内大臣ニ上申

シ且學習院長ニ報告スヘシ

第二十一條 「華族局」長官ハ學習院外ニ在ル學齡者ノ修學ニ關スル事項ヲ取調ヘ時々之ヲ學習院長ニ報告シ又學習院長ハ學習院生徒ニ關スル事項ヲ取調ヘ時々之ヲ「華族局」長官ニ報告スヘシ

第二十二條 就學及修學ニ關スル督責ヲ受ケ正當ノ理由ナクシテ之ヲ緩慢ニ付スル者及紀律ヲ犯シ退學ヲ命セラレタル者ハ共ニ懲戒ノ處分ヲ被ルコトアルヘシ

第二十三條 退學ヲ命セラレタル者一年ノ後親族連證シテ學習院ヘ入學ヲ請フトキハ宮内大臣ハ其事情ニ因リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

○第十節 學習院職員及官等

明治十九年六月十八日宮内省第八號華族一般へ達

學習院職員及官等ヲ改定スルコト左ノ如シ

諸學校

學習院職員及官等

第一條 學習院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

教頭

教授

幹事

寮監

醫員

助教授

書記

第二條 院長一人勅任二等トス宮内大臣ノ命ヲ承ケ院務ヲ總理

シ所屬職員ヲ統督ス

第三條 教頭一人奏任トス教授ヨリ之ニ兼任シ院長ノ指揮ヲ承

ケ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第四條 教授ハ奏任一等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第五條 幹事二人奏任四等以下トス院長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹

理ス

第六條 寮監二人奏任五等以下トス院長ノ指揮ヲ承ケ生徒ヲ監

督シ寄宿舎ヲ管理ス

第七條 醫員ハ一人又ハ二人奏任五等以下トス院中ノ衛生及治

療ヲ掌ル

第八條 助教授ハ判任一等以下トス教授ノ職掌ヲ助ク

第九條 書記ハ判任四等以下トス院長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務

ニ従事ス

○第十一節 學習院規則及學科課程

明治十九年八月十二日宮内省第十號華族一般へ達

學習院規則及學科課程左ノ通改定ス

諸學校

學習院規則

第一條 學習院ハ專ラ勅諭ノ旨ニ基キ華族ノ子弟ヲ教育スルノ所トス

但華族ノ子弟ニ非スト雖モ都合ニ依リ入學ヲ許スコトアルヘシ

教科

第二條 本院ノ教科ヲ分テ豫備科〔即小學科〕中學科及本科ノ三種トス

第一節

第三條 豫備科ニテハ中學科ニ入ルノ階梯トナルヘキ學科ヲ修ム

第四條 中學科ニテハ學習院本科分科大學陸軍士官學校海軍兵學校ニ入ルノ階梯トナルヘキ學科ヲ修ム

第五條 本科ニテハ華族ニ適當シタル高等ノ法文學科ヲ修ム

第二節 豫備科課程

第六條 豫備科ハ分テ六級トシ年齡滿六年ヨリ滿十二年ニ至ル其課程ハ修身國語及漢文外國語習字實物科圖書地理博物唱歌及體操トス

第三節 中學科課程

第七條 中學科ハ之ヲ尋常高等ノ二科ニ細別ス

其尋常科ハ分テ五級トシ年齡滿十二年ヨリ滿十七年ニ至ル其課程ハ修身國語及漢文外國語習字數學地理歷史圖書物理及化學博物學及體操トス

其高等科ハ分テ二級トシ年齡滿十七年ヨリ滿十九年ニ至ル其課程ハ國語及漢文外國語數學歷史物理及化學博物學哲學理財學及體操トス

第四節 本科課程

第八條 本科ハ分テ三級トシ滿十九年ヨリ滿二十二年ニ至ル其課程ハ國語及漢文外國語歷史博物學哲學理財學法學政治學及體操トス

第九條 本科、中學科、豫備科ハ皆一年ヲ以テ一學期トス

但豫備科ハ一學期ヲ以テ前期後期ニ分チ大試験ヲ行フト雖
凡進級證書ヲ與フルコトハ一學期ノ終リニ於テスル者トス

第五節 撰科

第十條 正科ノ外ニ撰科ヲ設ケ年齢既ニ長シ普通ノ學科ヲ修ム

ルノ暇ナキ者若クハ體質薄弱ニシテ普通ノ學科ヲ履ムニ堪ヘ
サル者ヲシテ特ニ一學科或ハ數學科ヲ撰テ之ヲ專修セシム

第十一條 撰科生徒其專修ノ學科ニ通曉シタル成績アルトキハ
本院ニ於テ特ニ該學科卒業試験ヲ施シ合格ノ者ニハ該學科撰

科卒業證書ヲ與フヘシ

第十二條 每週ノ授業時間ハ豫備科及尋常中學科ハ二十八時間
トシ高等中學科ハ二十三時間トシ本科ハ二十一時間乃至二十
三時間トス

但都合ニ由リテ伸縮スルコトアルヘシ

第十三條 毎日曜日ノ外休業日左ノ如シ

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭 三月二十一日

神武天皇祭 四月三日

秋季皇靈祭 九月二十三日

神嘗祭 十月十七日

開院紀念式 十月十八日

諸學校

天長節

十一月三日

新嘗祭

十一月二十二日

春期休業

三月中旬ヨリ四月(本項二十一年宮内省達)上旬迄一週日ノ内(第三十號ヲ以テ追加ス)

夏季休業

七月十一日ヨリ

冬季休業

九月十日マテ
十二月二十五日ヨリ
一月七日マテ

試験

第十四條 試験ハ小試験大試験卒業試験ノ三種トス

第十五條 小試験ハ一學期中豫備科ハ四回中學科ハ五回本科ハ學科ノ種類ニヨリ二回以上六回以下之ヲ施行シ大試験ハ豫備科ハ毎年六月二月ニ於テシ中學科及本科ハ六月ニ於テ施行ス撰科ノ試験ハ學科ノ種類ニヨリ或ハ中學科ニ準シ或ハ本科ニ準ス

第十六條 小試験ノ后ニハ豫備科及中學科生徒ノ席次ヲ定ム

第十七條 大試験ノ後ニハ一學期ノ得點ヲ閱シ各科生徒ノ等級及席次ヲ定ム

但二月ニ於テ施行スル豫備科ノ大試験ハ等級ヲ定ムルノ限ニ非ス

證書授與

第十八條 證書ハ進級證書及卒業證書ノ二種トス

第十九條 進級證書ハ大試験ノ後合格ノ者ニ授與シ卒業證書ハ各科卒業試験ノ後合格ノ者ニ授與スル者ニシテ皆定日ニ於テ其式ヲ行ヒ院長之ヲ授與ス

入學

第二十條 每學期ノ前入學志願者ヲ募集ス若シ臨時入學ヲ許スコアルトキハ試験ノ上假ニ相當ノ級ニ編入シ其學力ヲ驗査シタル後其等級ヲ定ム

諸學校

第二十一條 入學ヲ請フ者ハ必ス東京ニ名籍アル父兄宗親兩族

ノ内ヲ以テ保證人ト爲スヘシ若シ東京ニ名籍アル父兄宗親ナ

キモノハ東京ニ名籍アル華族中ニ於テ保證人ヲ立ツヘシ

第二十二條 華族ニ非スシテ入學ヲ許サル、者ハ正副二名ノ保

證人ヲ立テ其一名ハ必華族若クハ奏任以上ノ官員ニ限ル者トス

第二十三條 保證人死亡若クハ他府縣へ轉移スルトキハ他ノ保

證人ヲ代選シ直ニ本院へ届出ヘシ

但暫時ノ旅行ト雖モ留守中ハ其代人タルヘキモノヲ定メ之

ヲ届出ヘシ

第二十四條 入學スル者ハ先ツ保證人ヲ以テ左ノ書式ニ倣ヒ其

願書履歷書及保證書ヲ出スヘキモノトス

書式

入學願 用紙美濃紙二通

府下何^{〔郡〕}何町村何番地

何府縣華士族平民位爵某子弟孫

位爵 氏 名

何年何月何日生

右御院へ入學爲致度候間此段奉願候也

府下何^{〔郡〕}何町村何番地

何府縣華族若クハ官位

右保證人

氏 名 印

年 月 日

學習院長

何 某 殿

履歷書 用紙美濃紙一通

氏 名

諸學校

二百三

- 一出生 年月
- 一 生國 地名
- 一 現住地
- 一 父兄ノ官位爵或ハ職業
- 一 天^{然痘}或ハ種痘 年月
- 一 何年何月何日ヨリ何某ニ就キ或ハ何學校へ入學或ハ入塾何書何學修業何年何月何日何級卒業或ハ何學校へ轉學現今何學校何級修業

保證書 用紙美濃紙一通

氏 名

右御院へ入學御許可相成候ニ就テハ御院則謹守シ品行ヲ肅正ナラシムヘク萬一不都合ノ廉有之節ハ拙者ニ於テ一切引受可申候且ツ猥リニ退院致サセ間敷若シ疾病又ハ止ヲ得サル理由

アリテ退院相願度節ハ明細ニ其理由ヲ申立出願可仕候右保證仕候也

右保證人

年 月 日 氏 名 印

學習院長

何某殿

生徒心得

第二十五條 本院ノ生徒ハ殊ニ品行ヲ正クシ志操ヲ直クシ文武ノ業ヲ以テ身材ヲ鍊磨シ皇室ノ翼衛トナルニ負カサルヲ以テ目的トスヘシ

第二十六條 本院ノ規則ヲ遵守シ院長教頭教員ノ教令ニ從ヒ之レニ敬禮ヲ表スヘシ

第二十七條 院中從學途上往返共ニ制服ヲ着スヘシ

諸學校

第二十八條 生徒ノ交際ハ互ニ相親睦シ信義禮讓ヲ尙フヘシ
懲戒

第二十九條 生徒若シ規則ヲ犯シ又ハ放縱ノ行跡アルトキハ院長ヨリ之ヲ懲戒ス

第三十條 懲戒ハ戒諭、禁足寄宿生ノ遊歩又ハ留置通學生ヲ院中ニ留置ク禁足寫字禁足中寫字ヲ課ス又ハ留置寫字通學生ヲ留置キ寫字ヲ課ストス

第三十一條 寄宿生徒寄宿舎ニ於テ他ノ生徒ノ妨害ヲナシ又ハ屢懲戒ヲ受ケ悔改セサル者ハ退舎ヲ命ス

第三十二條 犯則情狀重キ者ニシテ本院懲戒ノ効已ニ斷ユルトキハ退學ヲ命ス

第三十三條 懲戒ニ處シ又ハ退舎退學ヲ命スルトキハ申渡書ヲ交付シ其寫ヲ以テ父兄又ハ後見人ニ之ヲ通牒スヘシ

學習院學科

學習院ノ學科ハ分テ豫備科〔即小學科〕中學科及本科トス

豫備科ハ分テ六級トシ六年間ニ亘リ年齡滿六年ヨリ滿十二年ニ至ルモノ中學科ニ入ルノ階梯トナルヘキ學科ヲ修ムル所トス

中學科ハ細別シテ尋常中學科高等中學科ト爲シ尋常中學科ハ五級高等中學科ハ二級トシ併セテ七年間ニ亘リ年齡滿十二年ヨリ

滿十九年ニ至ルモノ學習院本科、分科大學、陸軍士官學校、海軍兵學校ニ入ルノ階梯トナル可キ學科ヲ修ムル所トス而シテ生徒

志願ノ方向ニ應シ便宜其課程ヲ増減斟酌ス
本科ハ分テ三級トス三年間ニ亘リ年齡滿十九年ヨリ滿二十二年

ニ至ルモノ華族ニ適當シタル高等ノ法文學科ヲ修ムル所トス
以上三科ノ修業年限ハ合シテ十六箇年ニシテ其課程細目ハ左ノ

如シ外國語ハ英佛獨三語ノ内トス第一トハ專修スヘキモノヲ云フ第二トハ兼修スヘキモノヲ云フ
豫備科〔即小學科〕課程

諸學校

第一年〔第六級〕

一週間授業時間

修身

國語及漢文

習字

數學

實物

唱歌

體操

三 七 四 六 五 五 一、五

第二年〔第五級〕

第一年ニ同シ

第三年〔第四級〕

第二年ニ同シ

第四年〔第三級〕

修身

國語及漢文

習字

數學

實物

圖畫

地理

唱歌

體操

第五年〔第二級〕

修身

國語及漢文

習字

三 七 三 六 一 二 五 二 七 二

諸學校

數學
 圖畫
 地理
 第一外國語
 唱歌
 體操
 第六年〔第一級〕
 修身
 國語及漢文
 習字
 數學
 圖畫
 地理

一、一、五、五、二、一、六
 二、一、五、二、七、二

博物學
 第一外國語
 唱歌
 體操
 尋常中學校課程
 第一年〔第五級〕

一、一、五、五、一
 一、五、五

修身
 國語及漢文
 習字
 數學
 圖畫
 歷史
 物理及化學
 諸學校

一週間授業時間
 一、五、五、二、二、二、二

第二外國語
體操

第二年〔第四級〕

修身
國語及漢文
數學
圖畫
地理
歷史
物理及化學
第一外國語
體操

第三年〔第三級〕

三六二二二二五五一 三六

修身

國語及漢文

數學

圖書

地理

歷史

博物學

第一外國語

體操

第四年〔第二級〕

修身
國語及漢文
數學

諸學校

四三一 三六二二二二五五一

圖書

地理

歷史

物理及化學

第一外國語

第二外國語

體操

第五年〔第一級〕

修身

國語及漢文

數學

圖書

歷史

一一四三一 三四六一二二二

物理及化學

博物學

第一外國語

第二外國語

體操

高等中學科課程

第一年〔第二級〕

國語及漢文

數學

物理及化學

博物學

第一外國語

第二外國語

諸學校

三三六三三 一週間授業時間 三三二二三三

哲學
體操

第二年〔第一級〕

國語及漢文

數學

歷史

物理及化學

第一外國語

第二外國語

理財學

體操

本科課程

第一年〔第三級〕

三三

三

四

二

二

三

三

三

三

一週間授業時間

國語及漢文

歷史

博物學

第一外國語

第二外國語

哲學

法學

政治學

體操

第二年〔第二級〕

國語及漢文

歷史

博物學

諸學校

二

二

二

二

五

三

二

三

二

二

三

二

二

第一外國語

第二外國語

哲學

理財學

法學

體操

第三年〔第一級〕

哲學

理財學

法學

政治學

體操

右學科課程ハ明治十九年九月ヨリ施行ス

二二 二四 三二 三二 四二 三六 六二 四三

○第十二節 華族女學校職員及官等俸給

明治十九年二月十日宮内省第二號華族一般へ達

華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ

奉 勅

華族女學校職員及官等俸給

第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置ク

長

學監

幹事

教授

助教

書記

第二條 長一人勅任トス宮内大臣ノ命ヲ受ケ學校ノ事ヲ總理ス

第三條 學監一人奏任トス長ノ命ヲ受ケ教授及校中ノ事務ヲ監

諸學校

督ス

第四條 幹事二人奏任トス長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ幹理ス

第五條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ助ク

第七條 書記ハ判任トス長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第八條 女學校職員等級及俸給ハ左ノ表ニ依ル

長 勲任	年俸	三千圓	二千五百圓	二千圓	一千五百圓	一千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓
學監奏任	同	千八百圓	千五百圓	千二百圓								
幹事奏任	同	七百圓	六百圓	四百圓								
教授奏任	同	千八百圓	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓
助教判任	同	四百圓	三百五圓	三百圓	二百五圓	二百圓						
書記判任	月俸	二十圓	十五圓	十二圓								

○第十三節 華族女學校規則

明治十八年九月五日 宮内省華族一般へ達

華族女學校規則左ノ通相定候條此旨相達候事

華族女學校規則

第一章 通則

第一條 本校は 皇后宮の令旨に依りて建設し宮内省の所轄トす

第二條 本校に入學の生徒は華族の女子にして年齢滿六年以上十八年以下に在る體質健全の者たるへし

但本校の都合に依り士族平民の女子と雖も入校を許すことあるへし

第三條 本校の教旨は彝倫を本とし女子に適當したる學術技藝を教授するに在り

第二章 教科

諸學校

第一條 本校の教科を大分して小學科中學科の二種とす

第二條 小學科又分ちて下等小學上等小學の二等とし每等科を更に三學級に小分す

第三條 中學科亦又分ちて初等中學高等中學の二等とし每等科を更に三學級に小分す

第四條 小學科生徒の相當年齢は滿六年以上滿十二年以下とす故に修學年間總て六ヶ年小して每等科各三ヶ年毎級各一ヶ年とす

第五條 中學科生徒の相當年齢は滿十二年以上滿十八年以下とす故に其修學は亦總て六ヶ年間にして每等科各三ヶ年毎級各一ヶ年とす

第六條 小學科程は初等教育を完具し且中學科の豫習をあす者とす

第七條 下等小學科の課目は修身、讀書〔作文を含有す〕、算術〔四則に終る〕、實物〔地理學并有形理學の豫習を主とす〕、裁縫、禮式、習字、圖書、音樂、體操の十課とす

第八條 上等小學科の課目は修身、讀書〔前同〕、算術〔分數法并に小數諸等に終る〕、地理〔自然及ひ法制〕、本邦歴史、物理、博物〔動植礦及人身を含有す〕、裁縫、禮式、習字、圖書、音樂、體操の十三課とす

第九條 中學科程は稍高等ある普通學科を完具し且本校教習の主旨を大成する者とす

第十條 初等中學科の課目は修身、和文學〔讀書作文を含有す〕、漢文學〔讀書而已〕、歐語學〔談話を主とす〕、算術〔比例以外〕、地理〔自然及ひ法制〕、物理〔附天文說〕、化學〔無機體附有機體略說〕、礦物〔附地質略說〕、裁縫、禮式、習字、圖書、音樂、體操の十五課とす

第十一條 高等中學科の課目は修身、和文學〔前同〕、歐語學〔前同〕、代數〔二次方程式、三次方程式、高次方程式〕、幾何〔平面立體〕、歴史〔和漢洋〕、生理〔附解剖及養生〕、動物、植物、教

諸學校

育〔附心〕、家政〔附治〕、裁縫、禮式、圖畫、音樂、體操の十六課とす
 第十二條 中小學科每週授業時間表左の如し

本邦歴史	地理	算術	讀書	修身	學級		學年	等科	每週授業時間表
					上級	同級			
		四	五	三	上	同	第一年	下等小學科	
		四	五	三	上	同	第二年	下等小學科	
		四	五	三	上	同	第三年	下等小學科	
	二	四	五	二	上	同	第四年	上等小學科	
二	二	三	五	二	上	同	第五年	上等小學科	
三		三	五	二	上	同	第六年	上等小學科	
五	四	二	三〇	一五	比較	時間	授業	各科	

通計	體操	音樂	圖畫	習字	禮式	裁縫	博物	物理	實物
八二	二	一	一	五	一	一			五
一〇									
八二	二	一	一	五	一	一			五
一〇									
八二	二	一	一	五	一	一			五
一〇									
八二	二	二	二	三	一	二	三		
二									
八二	二	二	二	三	一	二	二		
二									
八二	二	二	二	三	一	二		三	
二									
八二	二	二	二	三	一	二		三	
二									
一六八	一二	九	九	二四	六	九	五	三	一五

每週授業時間表

諸學校

圖畫	禮式	裁縫	家政	教育	植物	動物	生理	礦物	化學	物理	歷史
二	一	三								三	
二	一	三							三		
二	二	三						二			
一		二	二				三				三
一		二	二	三		三					三
一		二	二	三	三						三
九	四	一五	六	六	三	三	三	二	三	三	九

地理	幾何	代數	算術	歐語學	漢文學	和文學	修身	學級	學年	等科
二			三	三	三	二	二	每週 時間 級第三	第一年	初等中學校
								同上 級第二	第二年	
二			三	三	三	二	二	同上 級第一	第三年	
										高等中學校
		二		四		四	二	同上 級第三	第四年	
								同上 級第二	第五年	
								同上 級第一	第六年	
六	二	四	九	二一	九	一八	一二	比較 時間 授業	各科	

習字	音樂	體操	通計
二	二	二	〇三
			一三
二	二	二	〇三
			一三
二	二	二	〇三
			一三
			〇三
			一一
二	二	二	〇三
			一二
二	二	二	〇三
			一二
			一二
			一八〇
六	二	二	〇三

第三章 學年及授業時間

第一條 學年は九月一日に始まり翌年七月三十一日に終る此間に於て一級の科程を完了する者とす

第二條 毎日授業の始は日の長短に隨ひ適宜之を前後すと雖も午前九時より後れざるを法とす

第三條 毎日授業の時數は小學科は五時間〔土曜日は三時間〕中學科は五時二十分〔土曜日は三時二十分間〕とす

但臨時伸縮することあるへし

第四條 一學年中休業日左の如し

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

冬期休業 十二月廿五日ヨリ 翌年一月十日マテ

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

春期休業 三月中旬ヨリ四月〔木項二十一年宮内省〕上旬迄ノ内一週間〔達第四號ヲ以テ追加〕

夏季休業 八月一日ヨリ 同卅一日マテ

日曜日

諸學校

第四章 試業式

第一條 試業は中小學科を具する所の課業の熟否を驗査する者にして小試業大試業の二種とす

第二條 小試業は授業凡三四十日毎に特に問題を設けて之を施し其得點の多寡及平常の功過勤惰を考へ生徒の席次を黜陟する者にして一學年中五回之を施行す

第三條 大試業は中小學科俱に學年の終り毎に特に問題を設けて之を施し本學年中平生の功過勤惰を考へ一級科程の進否を判するものとす

第四條 試業の成績は點數を以て評定し各試業の定點は一百を以て最上とし零を以て最下とす

第五條 小試業の一學科成績點は其試問に應答の評點を一半とし該小試業期內平生の功績點を一半とす其法並に最上點と百

と定め其得點を相和して二除し而して得るものとす

第六條 大試業の一學科成績點は其試問に應答の評點を一半とし該學年内の本學科小試業成績點の總和を一半とす其法並に最上點を百と定め其得點を相和して二除し而して之を得る者とす

第七條 小學科上等第一級の卒業に因りて小學全科の卒業を認め中學科高等第一級の卒業に因りて中學全科の卒業を認むるものとす

第八條 大試業に合格の者には證書を授與し更に上層の級に進む之を及第とし不合格の者は元級に留む之を落第とす

第九條 大試業の成績優等にして平素の品行拔群の者には褒賞を與ふることあるへし

第十條 大試業の成績點に因り受試生徒の及第落第判定するの

法左の如し

小學科

一課目以上	全科平均	及第
五十點以上	六十點以上	及第
五十點以下	六十點以上	落第
四十點以上	六十點以下	落第
五十點以上	六十點以下	落第

一課目五十點以下なれ共其課目の大試業點或は平常點六十以上なれば及第

中學科

一課目以上	全科平均	及第
五十點以上	七十點以上	及第
五十點以下	七十點以上	落第
四十點以上	七十點以下	落第
五十點以上	七十點以下	落第

一課目五十點以下なれ共其課目の大試業點或は平常點六十以上なれば及第

第十一條 前條落第の場合と雖も該學年中の小試業に相當の成績を得且酌量すへき事情ある者は教師の具狀に因り校長特別の處分を行ひ進級せしむることもあるへし尤此場合に於ては證書を與へず其他總て及第者と異なることをあし

第十二條 大試業の成績に由て生徒學業の完了を認むるため與ふる所の證書は修業證書卒業證書の二種とす

第十三條 修業證書は小中學科俱に毎級及第の者に之と授與し卒業證書は小學は上等學科中學は高等學科各第一級の大試業に及第の者に之を授與す

第十四條 修業卒業二種の證書様式左の如し

修業證書式

證書	第何號
位爵氏名何女或ハ姉妹	
何某	印校
年 齡	
學小何等科第何級修業候事	
年 月 日	
校 名	

卒業證書式

證書	第何號
位爵氏名何女或ハ姉妹	
何某	印校
年 齡	
中學全科卒業候事	
年 月 日	
校 名	

諸學校

第十五條 右二種の證書を與ふるは毎學年の終末に於て其儀式を設け各及第の生徒へ校長之を手授する者とす

但褒賞を與ふる者へは併せて褒狀を付與す

第五章 入學退學

第一條 生徒の募集は毎學年の始に於てす尤缺員ある時は臨時入學と許すことあるへし

第二條 入學志願の者は左の式に準して願書及學業履歷書を出すへし

願書及學業履歷書式

入學願 用紙美濃紙

何府華族

位爵氏名何女或は姉妹

何 誰

年 齡

右は今般御校へ入學志願に付御許容被下度依之學業履歷書相添
〔履歷無き者ハ以上七字を削つる〕此段相願候也

宿所

右父兄或は後見人

位爵 何 某印

年 月 日

華族女學校

御 中

學業履歷書

〔肩書同前〕

何 誰

生所

生年月

諸學校

現在所

一年月日何地何小學校に就學何等科何級修業或は何等科卒業
一年月日何地何學校に入り或は何某に就き何年月間何學科修
業用書何々

一學業證書寫何々

右之通候也

第三條 入學願書は必ず正副二通を出し又學業履歷無き者は生

年月生所現住所を別記し之を願書に添へて差出すへし

第四條 入學の許可を得たる者は左の書式に依り保證書を出す
へし

保證書

用紙美濃紙

何府華族

位爵氏名何女或は姉妹

何 誰

右の者今般御校へ入學御許可相成候上は御校則并御告諭等々堅
爲相守勤學可爲致候且本人在學中身上より起り候事柄は一切引
受可申候依て保證書如此候也

東京府華族

宿所

右保證人

位爵

何 某印

年 月 日

華族女學校

御 中

第五條 保證人は必ず東京在籍の父兄若くは宗親兩族の内を以
て之に充つへし若し東京在籍の父兄若くは宗親兩族無き者は
校長の許可を経て他の東京在籍の者を以て之に充つるを得

諸學校

但保證人は必ず其印鑑を本校へ差出し置くものとす

第六條 保證人他府縣に轉移するか或は死亡するときは直ちに保證人を更定し本校に届出へし

第七條 本校の生徒は修學半途にして妄りに退學するを許さず尤病氣或は不得已事故に依り退學せんと欲する時は其事由を具し校長の許可を得へし

但怠惰驕慢にして訓誡に従はず若くは三度以上大試業に落第の者は退校を命ずることあるへし

第六章 缺席

第一條 凡生徒は妄りに缺席するを許さず

第二條 病氣或は他の事故に依り已を得ず缺席する者の即日其保證人若くは後見人より届出へし

但病氣缺席一週間以上に亘る時は更に醫師の診斷書を添へ

て届出へし

第三條 事故ありて三日以上引續き昇校時限に後るゝ時は保證人或は後見人より届出へし

第四條 放課時限に先ち退校せざるを得ざる事故ある時は其都度保證人或は後見人より届出へし

第七章 生徒心得

第一條 本校の生徒たる者は常に 皇后宮の盛旨を服膺し心を正しくし行を勵まし温良貞淑の女徳を養成せん事を勉むへし

第二條 本校に在て學業と勤むる者は他日夫に配しては良妻たるべく子を得ては賢母たるべく父母舅姑に事へては孝順の子婦たるべく奴婢僕隸に臨みては温良慈惠の内君たるべく畢竟貴族女子の資質を完備せんか爲かれは虚文に馳せず空想に流れず専ら應用の道を索むへし

第三條 身體は才智を貯ふるの器にして徳行を載するの車ともいふべき者かれは常に飲食を節し肌膚を清潔にし運動を適度にする等凡ろ攝養の道を守りて氣力と壯健にせん事を勉むべし

第四條 毎日の課業を怠ることなく教場の出入は必ず其時を守り教場に在ては別して容儀と正しくし舉動を整肅にあすへし
第五條 長上師友に對しては殊に禮讓を厚くし信義を重んじ又堅く學校の規則及教誡を守るへし

第八章 授業料〔本學十九年宮内省第三號達ヲ以テ改正ス〕

第一條 本校の生徒は毎月金壹圓より少からず三圓より多からざる授業料と納むへし

但本則第三章第四條に定むる夏期休業の月は之と除く

第二條 保證人は前條の範圍内に於て豫め納額を定め左の書式

に準し入學許可の日より三日間に届出へし

書式 用紙美濃紙

授業料納額届

何 誰

右之者授業料毎月金若干宛相納川申候此段及御届候也

右保證人

年 月 日

何 誰印

華族女學校

御 中

第三條 授業料納附期日は毎月三日より五日迄の三日間とす

但新に入學の月は納額届出の日を以て納附期日とす

第四條 本校の承認を経て一箇月間全く出席せざる者は其月分授業料の全額十五日後新に入學する者は其月分の半額を納附

諸學校

するに及ばず

○第十五項 華族女學校設立位置ヲ定ム

明治十八年九月五日
宮内省華族一般へ達

今般四ツ谷區四ツ谷仲町皇宮附屬地内へ華族女學校ヲ設置シ當省所轄ニ相定候條
此旨相達候事

○第十四節 東京農林學校官制

明治十九年七月二十二日勅令第
五十六號同年同月二十三日布告

朕駒場農學校及東京山林學校ヲ廢シ更ニ東京農林學校ヲ置キ其
官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京農林學校官制

第一條 東京農林學校ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ農業獸醫及森

林ニ關スル諸學術ヲ教授スル所トス

第二條 東京農林學校ノ各専門學科ヲ卒へ定規ノ試験ヲ經タル
者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條 東京農林學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

助教補

訓導

舍監

書記

第四條 校長ハ一人奏任一等以下トシ農商務大臣ノ指揮監督ヲ
承ケ東京農林學校ヲ總轄ス其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如
シ

一、東京農林學校ノ秩序ヲ保持スル事

二、東京農林學校ノ狀況ヲ監察シ改良ノ必要ヲ認ムルノ事

諸學校

項アルトキハ案ヲ具ヘテ農商務大臣ニ提出スル事

第五條 幹事ハ一人奏任トシ現任校長ノ次等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第六條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

教授ノ人員ハ生徒ノ員數及學科ニ應ジテ別ニ農商務大臣ノ定ムル所ニ據ル

第七條 助教ハ判任トス職掌教授ニ亞ク

第八條 助教補ハ判任トス教授及助教ノ職掌ヲ佐ク

第九條 訓導ハ判任トス實業ヲ教ユルコトヲ掌ル

第十條 舎監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒及校舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ會計及庶務ニ従事ス

○第十六項 東京農林學校位置

明治十九年七月廿四日 農商務省告示第十四號

東京農林學校ノ位置ヲ駒場ニ定ム

右告示ス

○第十七項 東京農林學校校則

明治二十年十二月廿八日 農商務省告示第十號

明治十九年當省告示第十五號東京農林學校校則今般左ノ通改正シ直ニ施行ス

但明治十九年當省告示第十六號東京農林學校入校志願者學力試驗細則ハ廢止ス

東京農林學校校則

第一章 總則

第一條 東京農林學校ハ明治十九年勅令第五十六號東京農林學校官制第一條ニ基キ農業獸醫及森林ニ關スル學業ヲ教授スルヲ以テ責任トス

第二條 東京農林學校ノ學科ヲ分テ本科及ヒ豫科トシ本科ハ農科獸醫科林科ノ三科ニ分ツ

第三條 東京農林學校中別ニ農科獸醫科林科及水産科ノ各簡易科ヲ置ク
諸學校
二百四十七

第四條 各本科ニ於テハ其專門ニ關スル高尚ノ學理及ヒ實業ヲ教授シ以テ將來各業ノ擴張進歩ヲ期シ兼テ學術ノ進化ヲ圖ルヲ旨トス

第五條 豫科ニ於テハ本科ニ入ルニ須要ナル普通學科ヲ教ルヲ旨トス

第六條 各簡易科ニ於テハ簡易ノ教則ニ據リ其專門ニ關スル實業及ヒ學理ヲ教授シ專ラ當用ニ應スルヲ旨トス

第七條 本科及ヒ豫科ニ於テハ邦語並ニ英語ヲ用ヒ簡易科ニ於テハ邦語ノミヲ用ヒテ教授ス

第八條 修業年限ハ本科及ヒ豫科ヲ三箇年トシ簡易科ヲ三箇年トス各一學年ヲ以テ一學級トナス

第九條 本科修業ノ者ハ學生ト稱シ豫科及ヒ簡易科修業ノ者ハ生徒ト稱ス

第十條 學生生徒ハ本校ノ都合ニ依リ通學ヲ命スル場合ノ外凡テ校内寄宿舎ニ入舎スヘキモノトス

但止テ得サル事情ニ因リ保證人連署シテ通學ヲ請フ者ハ詮議ノ上之ヲ許スコ

トアルヘシ其事情疾病ニ係ルトキハ本校醫員ノ診斷書ヲモ添フルヲ要ス

第十一條 學生生徒ノ學資ハ總テ自辨トス

但旅行演習ヲ命スルトキハ制定ノ旅費ヲ給ス

第十二條 學生生徒ノ授業時間ハ每週二十四時間以内トス

但語學授業及ヒ實地習業時間ハ此制限ノ外トス

第十三條 授業ハ十一月一日ヨリ四月十五日迄午前九時ヨリ始メ四月十五日ヨリ十月三十一日迄午前八時三十分ヨリ始ム

第十四條 學生生徒ノ定員ハ六百名トス

第十五條 教官會議細則寄宿舎規則學生生徒心得懲罰細則試驗細則等ハ別ニ東京農林學校長ノ定ムル所ニ據ル

第二章 教官會議

第十六條 教官會議ハ東京農林學校ノ教授及ヒ助教ヲ以テ編成シ校長其議長トナルモノトス

諸學校

但校長ノ意見ニ依リ本條外ノ校員ヲ列席セシムルコトアルヘシ

第十七條 會議ハ議定ヲ要スヘキ事項アル毎ニ校長其時日ヲ定メテ之ヲ開クモノトス

第十八條 教官會議ニ於テハ左ノ事項ヲ議定スヘキモノトス

- 一 學生生徒ノ募集及ヒ入校試験ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ試驗ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ轉學ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ賞罰ニ關スル事項
- 一 撰科研究生ニ關スル事項
- 一 學科課程ニ關スル事項
- 一 授業ノ方法ニ關スル事項
- 一 大臣ノ下問若クハ校長ノ諮問ニ答ル事項

第十九條 教官會議ニ於テ議定シタル事項ニシテ大臣ノ裁決ヲ經ヘキモノヲ除ク

ノ外校長ハ總テ之ヲ採用執行スヘキモノトス

第三章 學科課程

第二十條 豫科簡易科及本科ノ學科課程ハ左ノ如シ〔各學科每週授業時數ヲ示ス〕

豫科		第一年級	第二年級	第三年級
步兵操練	四	四	四	
英語學	十	十二	八	
羅甸語學			三	獸醫科志願者ノミニ課ス
和漢學	四			
自在畫學	六			
	四			
代數學	三			
幾何學	三			

旅行演習		獸醫科簡易科					
臨時							
化學	第一學期	三					
	第二學期	三					
動物學	第一學期	三					
	第二學期	三					
植物學	第一學期	三					
	第二學期	三					
解剖學	第一學期	四					
	第二學期	三					
生理學	第一學期	四					
	第二學期	三					
組織學	第一學期	二					
	第二學期	二					
藥物學及治療論	第一學期	三					
	第二學期	三					
馬蹄論及蹄鐵法	第一學期	三					
	第二學期	二					
外科手術學	第一學期	二					
	第二學期	二					

病理通論	第一學期							
	第二學期							
內科學	第一學期							
	第二學期							
外科學	第一學期							
	第二學期							
動物疫論	第一學期							
	第二學期							
寄生動物學	第一學期							
	第二學期							
家畜飼養蕃殖管理論	第一學期							
	第二學期							
屍體剖檢法	第一學期							
	第二學期							
獸醫警察法	第一學期							
	第二學期							
產科學	第一學期							
	第二學期							
眼科學	第一學期							
	第二學期							
相馬法	第一學期							
	第二學期							
實習	第一學期							
	第二學期							

衛生學及微菌論										二
實驗	每定時									卒業論文
旅行演習	臨時									
農科簡易科										
物理學		第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
化學		三	三		二	二		二	二	
農用植物學		四	四							
農具論		一								
土壤論		二								
土地改良論			二							

肥料論										二
農用動物學及養蠶論										三
普通作物論									四	
牧草論									一	
園藝論									二	
家畜蕃殖飼養管理法									四	
森林增殖保護利用論									三	
特用作物論									三	
農場論									二	
實習	無定時									三
旅行演習	臨時									
農科本科										

農場管理法										三	三
農業法律											三
實驗	無定時										卒業論文
旅行演習	臨時										

第四章 學年學期及ヒ休業

第二十一條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年七月十日ニ終ル

第二十二條 學年ヲ分テ冬夏ノ二學期トス冬學期ハ九月十一日ヨリ翌年二月二十

日ニ至ル夏學期ハ二月二十一日ヨリ七月十日ニ至ル

第二十三條 休業期日ハ左ノ如シ

夏期休業

七月十一日ヨリ

九月十日マテ

冬期休業

十二月二十五日ヨリ

翌年一月十日マテ

學期試験後一週間

日曜日

開校紀年日 十月十二日

秋季皇靈祭 秋分日

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月二十三日

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭 春分日

神武天皇祭 四日三日

第五章 募集入校及ヒ在校

第二十四條 學生生徒ノ募集ハ毎年一回學年ノ終ニ於テシ期日及ヒ人員ハ其都度

前以テ廣告スヘシ

諸學校

但時宜ニ依リ臨時募集スルコトアルヘシ

第二十五條 學生生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集スヘシ

- 一 身體強健ニシテ規定ノ學科ヲ修ムルニ足ル者
- 一 資性行狀共ニ善良ナル者
- 一 規定ノ授業ヲ料納メ得ル者
- 一 在學中家事ニ係累ナキ者
- 一 徵兵令第十七條ニ該當スル者又ハ入校後一年間徵兵ニ相當セサル者

第二十六條 凡ソ東京農林學校ニ入學スルヲ許スヘキ者ノ年齢ハ本科ニ於テハ十八年以上二十五年以下豫科ニ於テハ十六年以上二十四年以下簡易科ニ於テハ十八年以上三十二年以下トス

第二十七條 高等中學校ノ本科卒業證書ヲ有スル者ハ別ニ學力ノ試験ヲ要セス直ニ其志ス所ノ本科第一年級ニ入ルヲ許ス

第二十八條 高等中學校豫科及尋常中學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ別ニ學力ノ試

驗ヲ要セス直ニ豫科第三年級ニ入ルヲ許ス

第二十九條 尋常中學校ノ第二級以上ニ進級シタル證明書ヲ有スル者ハ別ニ學力ノ試験ヲ要セス直ニ豫科第一年級ニ入ルヲ許ス

第三十條 第二十七條第二十八條及第二十九條ノ資格ナキ者ニシテ豫科第一年級ニ入學セント欲スル者ノ入校試験課目ハ左ノ如シ

- 一 和漢學 日本外史日本政記ノ類訓點釋
解片假名交リ往復記事論說文
音讀譯讀會話釋
- 一 英語 解書取文法作文
英文和譯
和文英譯
- 一 翻譯
- 一 萬國地理 地名山川ノ位置風土物産等
- 一 算數學 四則分數小數比例利息算自乘法
開平開立數學連數度連數求積法
分數一次方程式自乘法求
根法指數法二次方程式
- 一 代數學
- 一 幾何學 平面幾何

第三十一條 前條ノ試験ニ及第セシ者更ニ豫科第二年級又ハ第三年級ニ入ルヲ順

諸學校

フトキハ入校試験委員ノ議決ヲ經テ其入ラント欲スル級ノ生徒ノ履修セシ諸學科ニ付キ學力ノ試験ヲ行ヒ合格者ハ之ヲ許スコトアルヘシ

第三十二條 簡易科第一年級ニ入學セント欲スル者ノ入校試験課目ハ左ノ如シ

但高等小學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ卒業後ノ履歷ニ徴シテ簡易科第一年級

ニ無試験入學ヲ許スコトアルヘシ

一 和漢學 日本外史日本政記ノ類訓點釋
解片假名交リ住復記事論說文

一 日本地理 地名山川ノ位置風土物産等

一 日本歴史 人物戰爭變遷等

一 數學 四則分數小數比例
息算自乘法開平開立

第三十三條 第三十條第三十一條及第三十二條ニ定ムル學力試験課目ノ内他ノ學

校ニ於テ卒業シタル證明書アル課目ニ限り試験ヲ要セスシテ入校ヲ許スコトア

ルヘシ

第三十四條 入校志願者ノ願書及ヒ履歷書ハ左式ニ據テ之ヲ東京農林學校ニ差出

スヘシ

入校願書式 (正副二通用紙美濃)

入校願書

某志願者 儀何學〔農學、獸醫學、林學、水産學〕志願ニ付今般御校(何科何年級)へ御試験ノ上
入學許可相成度履歷書相添此段相願候也

何府何國何區何町何番地

寄留 郡何村何番地

同居 現在ノ住所番地

何府 華士族平民戶主誰子弟

年 月 日

姓 名 印

何年何月日生

東京農林學校校長某殿

履歷書式 (一通用紙美濃)

履歷書

諸學校

姓名

何年何月日生

一何年何月ヨリ何年何月迄何所何學校ニ於テ若クハ何誰ニ就キ何學科修業
一何年何月何學校ニ於テ第何年ノ科程卒業或ハ全科卒業

一從來用書何々

一卒業證書或ハ進級證書寫

第三十五條 入校試験ヲ受ケント欲スル者ハ受験料トシテ本科ハ金貳圓豫科並ニ簡易科ハ金壹圓ヲ願書ニ添ヘ東京農林學校ニ納付スヘシ

但自己ノ都合ニ依リ體格試験ヲ受クル前ニ入校願ノ取消ヲ乞フ者ニハ之ヲ返付ス

第三十六條 入校ノ許可ヲ得タルモノハ左式ニ據リ直ニ在校醫書ヲ東京農林學校ニ差出スヘシ

在校醫書式 (一通用紙美濃)

紙印

在校醫書

某儀今般入校御許可相成候ニ付テハ在校中校則等堅ク相守中途退校仕間敷候仍テ醫書如件

何府何國何區何町何番地

寄留現在ノ住所番地

同居
何府何縣華士族平民戶主誰子弟

姓名印

何年何月日生

年月日

東京農林學校長某殿

右之者今般入校御許可ニ付テハ御規則ノ通堅ク相守ラセ中途退學致サセ間敷且本人在校中ニ係ル一切ノ事件ハ私共引受可申仍テ保證仕候也

宿所

族籍

諸學校

保證人 姓 名 印

何年何月日生

宿所

族籍

副保證人 姓 名 印

何年何月日生

東京農林學校校長某殿

前書保證人何某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ一家計ヲ立ル者ニ相違無之候也

何區長 姓 名 印

前書副保證人何某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ一家計ヲ立ル者ニ相違無之候也

何區長 姓 名 印

第三十七條 保證人副保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府區内ニ一家計ヲ立ル者ニ限ル

但保證人又ハ副保證人ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ換ヘシム

第三十八條 保證人又ハ副保證人府外ニ旅行セントスルトキハ豫メ相當ノ代理者

ヲ立テ東京農林學校ニ届置クヘシ

但代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ換ヘシム

第三十九條 保證人又ハ副保證人死去若クハ他府縣ニ轉住スルトキハ直ニ他人ヲ

以テ之ニ換ヘ第三十六條ニ定ムル在校誓書式ニ準シ更ニ證書ヲ書改ムヘキモノ

トス

第四十條 入校試験及第者定員ヲ超過スルトキハ點數ノ高キニ應シテ入校ヲ許シ

同點ノ者ハ入校願ノ早キニ應シテ許ス

第四十一條 入校志願者學力ノ試験ハ校長ノ具申ニ依リ農商務大臣其委員ヲ命シ

テ之ヲ行ハシム

第四十二條 學生若クハ豫科生徒ニシテ中途事故ノ爲メニ志願ノ學科ヲ履修スル

能ハス更ニ簡易科ニ轉學ヲ願出ルトキハ學年ノ始ニ於テ相當ノ級ニ編入スル

諸學校

コトアルヘシ又同様ノ理由ニ依リテ簡易科第二級以上ノ生徒豫科へ轉學ヲ願
出ルトキハ毎學年ノ始試験ノ上相當ノ級ニ編入スルコトアルヘシ

第四十三條 東京農林學校舊學生生徒ニシテ願ニ依リ退校セシ者曾テ學修セシ學
科ヲ再修セント欲シ更ニ入學ヲ請フトキハ學年ノ始メヨリ原級ニ入學ヲ請フ者
ニ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第六章 退校

第四十四條 學生生徒疾病ニ罹リ醫員ノ診斷ヲ以テ現定ノ學術ヲ履歷スル能ハサ
ルモノト認ムルトキハ退校ヲ命ス

第四十五條 學生生徒疾病ニ罹リ又ハ其他已ムヲ得サル事故ニ依リ退校セント欲
シ正副保證人連署ヲ以テ願出ルトキハ之ヲ許ス

但疾病ニ罹リタルトキハ醫員ノ診斷書ヲモ添フルヲ要ス

第七章 撰科研究

第四十六條 本科又ハ簡易科卒業生ニシテ既ニ卒業セシ學課目ノ内一課目又ハ數

課目ヲ撰ミ更ニ深ク研究センコトヲ欲スル者ハ願ニ依リ之ヲ許可スルコトアル
ルヘシ

但撰科研究年限ハ何等ノ理由アルニ係ラス一箇年ヨリ少ナク二箇年ヨリ多ラ
サルモノトス

第四十七條 前條ノ許可ヲ得タル者ハ撰科研究生ト稱ス

第四十八條 研究滿期ニ際シ在校中研究セル課目ニ付キ論文ヲ作り之ヲ校長ニ差
出サシメ優等ノ者ニハ褒狀ヲ授與シ其論文ハ永ク東京農林學校ノ圖書館ニ保存
シ閱覽ニ供スヘシ

第四十九條 修業中官廳若クハ其他ヨリ學資ヲ受ケタル者ニシテ卒業後更ニ撰科
生ヲラント欲スル者ハ其學資ヲ給與若クハ貸付シタル官廳等ノ承認ヲ得ルニ
アラサレハ之ヲ許サス

第五十條 撰科研究生ハ通學スル者トシ授業料ヲ徴セス

第五十一條 撰科研究生ト雖モ正副保證人ヲ立テ學生生徒心得ヲ遵守スヘキモノ
諸學校

トス

第八章 進級及ヒ卒業

第五十二條 學生生徒ノ進級ハ學業試驗點ニ依テ之ヲ定ム

第五十三條 學業試驗ヲ分テ左ノ三種トス

一 臨時試験

一 學期試験

一 學年試験

第五十四條 臨時試験ハ現ニ履修中ノ學科ニ付キ受持ノ教官ノ見込ヲ以テ臨時之ヲ行フモノトス

第五十五條 學期試験ハ其學期中履修セシ學科ニ付キ冬學期ノ終リニ於テ之ヲ行フモノトス

第五十六條 學年試験ハ學年ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ該學年中ニ履修セシ全課目ノ試験ヲ受ケシムニ學年引續キ落第セシモノハ退校ヲ命ス

第五十七條 凡ソ試験ハ教官ノ見込ニ依リ口述筆記又ハ實驗ノ法ヲ以テ之ヲ行ヒ其成績ヲ案シテ驗點ヲ付ス

第五十八條 試験ノ驗點數ハ各課目一百點ヲ以テ最高點トナシ六十點ヲ及第點トス

第五十九條 一課目ノ學期點數ハ各學期中ノ臨時試験平均點ト學期試験點數トヲ合セ二ヲ以テ其和ヲ除シ定ムルモノトス

第六十條 一課目ノ學年點數ハ夏學期中ノ臨時試験平均點ト學期試験點數及ヒ學年試験點數ヲ加ヘ三ヲ以テ其和ヲ除シ定ムルモノトス

第六十一條 學期ノ諸課目平均點數ハ各課目ノ學期點數ヲ通算シ課目ノ數ヲ以テ其和ヲ除シ之ヲ定ム次學期中學生生徒ノ席順ハ此平均點數一順序ニ據ル

第六十二條 學年ノ諸課目平均點數ハ各課目ノ學年點數ヲ通算シ課目ノ數ヲ以テ其和ヲ除シ之ヲ定ム次學年冬學期中學生生徒ノ席順ハ此平均點數ノ順序ニ據ル

第六十三條 學年ノ終リニ於テ左表ニ據リ學生生徒ヲ黜陟ス

諸學校

但卒業論文點數ハ此制限外トス

諸課目平均點數	不合格ノ課目數	一課目ノ學年點數	處分
六十以上	無		昇級
同	一課目	五十以上	昇級
同	同	五十未滿	原級
同	二課目以上	六十未滿	原級
五十以上六十未滿	一課目或ハ二課目	六十未滿	原級
同	三課目以上	四十以上	原級
同	同	四十未滿	進級
四十以上五十未滿	一課目	五十未滿	原級
同	二課目以上	五十未滿	退校
四十未滿	一課目以上	四十未滿	退校

	四課目以上	退校
--	-------	----

第六十四條 凡ソ試験ニ缺席シ點數ヲ得ル能ハサルモノハ何等ノ事由アルニ拘ラス總テ零點ヲ付ス

第六十五條 學年ノ試験ヲ完フシタル者ニハ進級證書ヲ授與ス

第六十六條 本科又ハ簡易科ノ受業ヲ卒リ學年ノ試験ヲ完フシタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第九章 賞罰

第六十七條 一學年間試験一成績優等ニシテ平素品行方正ナル者ハ次學年ノ始ニ於テ褒賞ヲ付與シ又ハ該學年中特待生トナシ授業料ヲ免スルコトアルヘシ

第六十八條 特待生ニシテ品行ヲ損シ學業ヲ怠リタルトキハ直ニ特待生ヲ解ク

第六十九條 凡ソ褒賞ハ左ノ三種トス

一 金圓

一 圖書器械

諸學校

一 賞狀

第七十條 校則若クハ其他ノ命令規則ニ背戾シタルモノハ其情狀ニ依リテ懲罰ス

第七十一條 凡ソ懲罰ハ左ノ四種トス

- 一 留置
- 一 禁足
- 一 退舎
- 一 退校

第十章 授業料

第七十二條 本科授業料ハ一學年金貳拾圓トシ豫科及簡易科授業料ハ一學年金拾圓トシ七月八月ヲ除キ毎月(缺課ノ有無ニ係ラス)第一月曜日若クハ火曜日ニ於テ月割ヲ以テ之ヲ徵收ス

第七十三條 前條授業料納付ノ期限ニ違フモノアルトキハ之ヲ保證人ニ通知スヘ

シ若シ通知ノ當日ヨリ七日巳内ニ納付セサルトキハ本人ニ退校ヲ命ス

○第十八項 英語學試驗方ヲ定ム

明治二十一年二月六日 農商務省告示第一號

明治二十年當省告示第十號東京農林學校校則第二十八條ニ依リ高等中學校豫科又ハ尋常中學校卒業證書ヲ有スル者ハ該校豫科第三年級ニ尋常中學校第二年級以上ニ進級シタル證明書ヲ有スル者ハ同則第二十九條ニ依リ該校第一年級ニ試驗ヲ要セス直ニ入ルヲ許スヘキノ處當分ノ内英語學ノ一科ハ之ヲ試驗スルコトト定ム但此場合ニ於テハ受験料ヲ徵スルノ限ニアラス

●山口縣伺

報(電) (十九年八月六日)

農林學校生徒ハ令十八條三項ニ包含スルヤ

○陸軍省指令 (十九年八月二十五日)

農林學校生徒ハ學生ニ非サレハ令十八條三項ニ包含セス

○第十五節 札幌農學校官制

明治十九年十二月廿八日勅令 第八十四號同年同月同日布告

朕札幌農學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

諸學校

札幌農學校官制

第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農工ニ關スル學術技藝ヲ教授スル所トス

第二條 札幌農學校ノ各專門學科ヲ卒へ定規ノ試験ヲ經タル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條 札幌農學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

- 校長
- 幹事
- 教授
- 助教
- 訓導
- 舍監
- 書記

第四條 校長ハ一人奏任トス北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ總轄シ幹事以下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 教授二人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐シ

第八條 訓導ハ判任トス農工ノ實業ヲ授クルコトヲ掌ル

第九條 舍監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ命ヲ承ケ生徒及校舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○第十九項 公立農學校ノ敷地無代價下渡方 明治十四年三月四日第十號達府

縣節取 明治十三年一月第六號ヲ以テ公立小學校公立中學校公立專門學校等設置ノ地所ハ無

諸學校

代價ニテ可下渡旨相違置候處今般「教育令」改正布告候ニ付テハ自今公立農學校設置ノ地所モ公立專門學校同様可取計此旨相違候事

○第二十項 公立農學校實驗用地所無借料使用定限 明治十六年十月廿日第四十五號達府縣へ

公立農學校ニ於テ實驗用田圃ニ供スル爲メ官有地ヲ要スルトキハ每一校五町步以内無借地料使用差許候條官有地ノ内差支ナキ場所ヲ撰ミ内務省へ申出ヘシ此旨相違候事

○第十六節 東京電信學校官制 明治二十年五月二十日勅令第十四號同年同月二十一日布告

朕電信修技學校ヲ廢シ更ニ東京電信學校ヲ置キ其官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京電信學校官制

第一條 東京電信學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 東京電信學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

- 校長
- 幹事
- 教授
- 助教
- 書記

第三條 校長ハ一人奏任三等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任現任校長ノ次等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル教授ノ人員ハ生徒ノ員數及其學科ニ應シ別ニ遞信大臣ノ定ム

諸學校

ル所ニ依ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第七條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○第二十一項 東京電信學校規則 明治二十年六月四日 逓信省告示第百六號

東京電信學校規則左ノ通之ヲ定ム

東京電信學校規則

第一章 總則

第一條 本校生徒タル者ハ電信事業ニ従事スルヲ以テ目的トナス者ニ限ル

第二條 生徒卒業ノ後ハ三箇年間逓信省ニ奉職スルノ義務アルモノトス

第二章 教科

第三條 生徒ハ本校ニ於テ二箇年間左ニ掲クル科目ノ教授ヲ受ク

一 英學或ハ佛學

一 數學

一 物理學及化學大意

一 圖學

一 電信學

一 電信技術

一 簿記

第四條 生徒ノ等級ヲ分テ三級トス入校試業合格ノ者ヲ三級生第一學年ノ終ニ於

テ試業合格ノ者ヲ二級生第二學年ノ終ニ於テ試業合格ノ者ヲ一級生トス

第五條 一級生ハ數箇月間實地ニ就テ電信ノ業務ヲ練習セシム

第三章 學年、學期、及休業

第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ 七月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ 十二月二十四日マテ

諸學校

第三學期 一月八日ヨリ 三月三十一日マテ

第八條 夏期休業ハ八月一日ヨリ同三十一日ニ至リ冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル

第九條 日曜日並ニ左ニ掲ケル祭日祝日ハ休業トス

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

第四章 入校退校

第十條 生徒入校ノ期ハ每學年ノ始トス

第十一條 入學ヲ許スヘキ者ハ左ノ各項及學科試業ニ合格シニ週間技術ヲ修メシメ其能否ヲ試業シテ入學ヲ許否スルモノトス

- 一 年齡十五年以上二十一年以下ノ者
- 一 品行方正ナル者
- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 一 體格健康ナル者
- 一 徵兵令第十七條ニ該當スル者或ハ一箇年間徵兵ニ關係ナキ者

學科試業ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 英學又ハ佛學 會話書取
歐文和譯
和文歐譯
- 一 算術 開平マア
- 一 漢文 史類
- 一 作文 記事

諸學校

一 筆蹟 權行二體

第十二條 電信事業ニ從事スル處ノ技術官ハ試業ヲ受ケスシテ入學スルコトヲ得

第十三條 入學志願者ハ甲號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ保證人ヲ立テ乙號書式ノ誓約書ヲ差出スヘシ

第十五條 保證人ハ丁年以上ニシテ東京府下ニ居住シ且其府下ニ於テ地所若クハ

家屋ヲ有スル戸主ニ限ル

第十六條 保證人府外ヘ轉住シ又ハ地所家屋ノ所有權ヲ失シ若クハ死亡シタルト

キハ保證人ヲ更定スヘシ

第十七條 保證人二箇月以上ノ旅行ヲナストキハ代理者ヲ立ツヘシ

第十八條 生徒在校中及服務期限中ハ退校又ハ辭職スルコトヲ得ス

但不得止事故アルモノハ願書ニ其事由ヲ證明シ親族保證人連署ノ上出願スヘシ

第十九條 生徒ニシテ左項ノ一ニ該ル者ハ退校ヲ命ス

第一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第二 品行不真或ハ怠惰ニシテ屢々校則ヲ犯ス者

第三 學年試業ニ於テ落第二回ニ及フ者

第四 傷疾疾病ニ罹リ將來ノ目的ナキ者

第五章 試業及卒業

第二十條 試業ハ學期試業及學年試業ノ二種トス

第二十一條 學期試業ハ第一及第二學期ノ終ニ於テ之ヲ施行シ學年試業ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ施行ス

第二十二條 一課目ノ學年評點數ハ學期試業評點數ト學年試業評點數トヲ和シテ得ルモノトス

第二十三條 學年諸科目評點數ハ總課目ノ學年評點數〔第二十二條ノ方法〕ヲ和シテ得ルモノトス

諸學校

第二十四條 學業左ノ程度ニ達シタル者ヲ試業合格者トス

- 一 各課目ノ學年評點數滿點ノ三分ノ一以上
- 二 諸課目ノ學年評點數滿點ノ二分ノ一以上

第二十五條 學年試業ノ得點多ク且平素ノ品行特ニ端正ナル者ニハ褒賞ヲ附與ス

第二十六條 第一學年ノ終ニ於テ試業ニ落第セシ者ハ原級ニ止メテ復習セシム

第二十七條 第二學年ノ終ニ於テ試業落第セシ者ハ一學期間ノ復習ヲ命シテ後再

試業ヲ施行ス

第二十八條 第一級生ニシテ實地ニ就キ電信ノ業務ヲ練習セシ者ニハ卒業證書ヲ

授與ス

第六章 學費及還納

第二十九條 生徒ハ都テ授業料ヲ免ス且課業用ノ書籍ハ之ヲ貸渡シ筆墨紙ハ現品

ヲ給與ス

第三十條 第三級若クハ二級生徒ニシテ學術優等ノ者ハハ寄宿料トシテ一箇月金

五圓ヲ給スルコトアルヘシ

第三十一條 第一級生ニシテ實地ニ就キ電信ノ業務ヲ練習スル者ハハ一箇月金七

圓ヲ給ス

第三十二條 第三十條第三十一條ノ金額ヲ給スル生徒ニシテ左ノ二項ニ該當スル

トキハ給與金ヲ中止スヘシ

- 一 學業怠慢又ハ品行不良ナル者
- 二 闕課引續キ六十日ヲ超ユル者

第三十三條 第十八條但書ノ場合ニ於テ退校又ハ辭職ヲ願出テ或ハ懲戒ニ依リ退

校又ハ免職申付ルトキハ寄宿料并ニ筆墨紙料〔一箇月〕ヲ本人若クハ保證人

ヨリ還納セシム

〔甲號書式〕 用紙美濃紙二ツ折
正副二通

入學願

私儀電信學修業志願ニ付御校ヘ入學ノ試業被成下度此段奉願候也

諸學校

某府廳士族平民
某國某區某町何番地住某子弟或ハ附籍
東京府下某區某町何番地寄留或ハ某同居

年月日

何 某 印

何年何月生

東京電信學校長某殿

(乙號書式) 用紙美濃紙二ツ折

印紙貼用

誓約書

今般私儀志願之通入學御許可相成候ニ付テハ校則相守修業勉勵可致ハ勿論通信
技手拜命ノ日ヨリ三箇年間通信省ニ奉職電信事務ニ從事仕リ何レノ地方ヘ在勤
候トモ決テ異議申出間敷候若シ疾病等ニテ退校願出ルカ又ハ官ヨリ退校被命候
節ハ御規則ノ通學費金還納可致候依テ誓約書如斯候也

肩書前同斷

年月日

何 某

何年何月生

東京電信學校長某殿

前書何某今般入學御許可相成候ニ付テハ校則爲相守且本人ニ關スル一切ノ事件
ハ私引受可申候依テ保證仕候也

某府廳士族平民
東京府下某區某町何番地

年月日

保證人 何 某 印

前書保證人ハ東京電信學校規則第十五條ニ該當スル者ト認ム

東京府何區 長 印

○第二十二項 東京電信學校別科規則

明治二十一年九月廿四日
通信省告示第百六十一號

東京電信學校ニ別科ヲ設ケ規則左ノ通相定ム

諸學校

東京電信學校別科規則

第一條 東京電信學校別科科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 經濟學 大意講義
 - 一 法律學 刑法、治罪法、民法、商法、ノ大意講義
 - 一 和漢學 講義
 - 一 地理學
 - 一 簿記並會計法
 - 一 郵便、郵便爲替、郵便貯金事務執行法
- 第二條 別科生ハ本科一級生ニシテ學術伎倆優等ノ者ヨリ特選スルモノトス
- 第三條 別科生ハ一箇年間本校ニ於テ學術ヲ教授シ後チ數箇月間實地ニ就キ通信ノ實務ヲ練習セシム
- 第四條 別科生ハ學費トシテ一箇月金五圓ヲ給ス

○第二十二項 電信技術見習生取扱規則

明治二十年六月四日 逓信省告示第百七號

電信技術見習生ヲ置キ取扱規則左ノ通之ヲ定ム

電信技術見習生取扱規則

第一條 電信技術見習生ハ逓信管理局長臨時人員ヲ限リ之ヲ募集シ其區内便宜ノ地ニ於テ教育ス

第二條 見習生志願者ハ左ノ各項ニ適合シ及學科試業ニ合格スル者ニ限ル

- 一 年齡滿十五年以上滿二十二年以下ニシテ二箇年間徴兵ニ關係ナキ者
- 一 品行方正ナル者
- 一 體格健康ナル者

學科試業科目左ノ如シ

- 一 作文 通常往復用文
- 一 筆蹟 片假名及羅馬字
- 一 橫文 讀方及綴字方
- 一 算術 比例迄

諸學校

第三條 第二條ノ各項ニ合格スルモノト雖モ尙ホ管理局ヨリ指定スル場所ニ於テ二週間技術ヲ修メシメ其能否ヲ試業シテ入學ヲ許否スルモノトス

第四條 見習生志願者ハ甲號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

第五條 入學許可ヲ得タル者ハ保證人ヲ立テ乙號書式ノ誓約書ヲ差出スヘシ

第六條 見習生ハ一週間二十四時ノ割合ヲ以テ一箇年間通信技術歐文書方及ヒ綴

方ヲ修メシム

第七條 修業用筆墨紙等ハ都テ現品ヲ給與ス

第八條 見習生ハ修業中機械室ニ出入スルヲ許サス

第九條 見習生ハ修業滿一箇年ニシテ試業ヲ施行スルモノトス

但試業落第者ハ尙ホ三箇月間修業セシメ再試業ヲ施行スルコトアルヘシ

第十條 試業及第者ニハ卒業證ヲ授與スヘシ

第十一條 卒業生ハ滿三箇年間電信事務ニ服從スル義務アルモノトス

第十二條 見習生ハ中途廢學及服務期限中辭職スルコトヲ得ス

但不得止事故アルモノハ其事由ヲ證明シ親族保證人連署ノ上出願スヘシ

第十三條 前條但書ノ場合ニ於テ廢學又ハ辭職ヲ願出ルカ或ハ廢學若クハ免職申

付ルトキハ本人又ハ保證人ヨリ在學費用〔壹箇月壹圓ノ割〕ヲ還納セシム

第十四條 保證人ハ見習生募集ノ地ニ居住シ且其地ニ於テ地所若クハ家屋ヲ有ス

ル月主ニ限ル

第十五條 保證人其地ヲ轉シ又ハ地所家屋ノ所有權ヲ失シ若クハ死亡シタルトキ

ハ保證人ヲ更定スヘシ

第十六條 保證人二箇月以上ノ旅行ヲナストキハ代理者ヲ立ツヘシ

甲號書式 用紙美濃紙ニツ折 正副二通

入學願

私儀電信技術見習生志願ニ付御試業被成下度奉願候也

某府華族平民
某縣士族平民
某國某區某町何番地住某子弟或ハ附籍

諸學校

年月日

廳
某府某區某町何番地寄留或ハ某同居
縣

何 某印

何年何月生

遞信管理局長某殿

乙號書式 用紙美濃紙二ツ折

印紙貼用

誓約書

今般私儀志願之通電信技術見習生ニ御採用相成候ニ付テハ御規則相守技術修業中ハ勿論後日奉職電信事務ニ從事仕リ何レノ地方ニ在勤候トモ決シテ異議申出間敷候若シ疾病等ニテ辭職願出ルカ又ハ官ヨリ廢學被命候節ハ御規則ノ通在學費用ヲ還納可致候依テ誓約如斯候也

肩書前同斷

年月日

何 某印

何年何月生

遞信管理局長某殿

前書何某今般電信技術見習生ニ御採用相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ爲相守且本人ニ關スル一切ノ事件ハ私引受可申候依テ保證仕候也

廳
某府華族平民
縣士

年月日

何 某印

前書保證人ハ取扱規則第十四條ニ該當スル者ト認ム

區
何府縣何戶 長印

○第十七節 商船學校官制

明治十九年四月十六日勅令
第十九號同年同月十七日布告

朕商船學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商船學校官制

第一條 商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海運用機關ノ學術

諸學校

ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條 校長ハ一人奏任二等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承

ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條 幹事ハ一人奏任三等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ

掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ三人奏任三等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第七條 書記ハ判任トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○第二十四項 東京商船學校規則 明治十九年四月廿八日

當省所轄東京商船學校規則左ノ通り改正ス

右告示ス

東京商船學校規則

第一章 總則

第一條 東京商船學校ハ遞信省ノ所管ニシテ航海科及機關科ノ生徒ヲ教育スル所ナリ

第二條 本校生徒トナルヘキ者ハ海軍豫備員志願ノ者ニ限ル

第三條 生徒卒業ノ後ハ航海科ニ在テハ商船ノ船長運轉手機關科ニ在テハ機關手

ノ業務ニ従事スヘキモノトス

第四條 生徒卒業ノ後ハ海軍士官或ハ准士官ノ豫備員トシテ海軍兵籍ニ編入シ海

軍一定ノ規則ニ據リ服役セシムルモノトス

諸學校

第二章 教科

第五條 生徒修業ノ期ハ五箇年ト定ム

第六條 航海科生徒ノ學フヘキ課程ヲ分テ五級トナス其第五級ヨリ第二級ニ至ル

迄ハ本校ニ在テ每級六箇月以内ニ左ニ掲クル學科ヲ學ハシム

但シ砲術ノ一科ハ海軍兵學校ニ於テ之レヲ教授ス

第五級

第四級

和漢學 英學 數學 運用術 砲術

第三級

第二級

和漢學 英學 航海術 運用術 砲術

其第一級ハ航海船ニ乗組ミ滿三箇年間航海ノ實科ヲ修業セシム

第七條 機關科生徒ノ學フヘキ課程ヲ分テ四級トナス其第四級ヨリ第三級ニ至ル

迄ハ本校ニ在テ每級六箇月以内ニ左ニ掲クル學科ヲ學ハシム

但シ砲術ノ一科ハ海軍兵學校ニ於テ之レヲ教授ス

第四級

第三級

和漢學 英學 數學 機關學 製圖 砲術

其第二級ハ機關場ニ在テ滿三箇年間機械製作ノ實科ヲ修業セシム其第一級ハ航

海船ニ乗組ミ滿一箇年間機關運轉ノ業ヲ修メシム

第三章 學年休業

第八條 學年ハ九月一日ニ始マリ翌年七月二十日ニ終ル

第九條 學年ヲ分テ二學期トス第一學期ハ九月一日ヨリ二月二十日ニ至リ第二學

期ハ二月二十一日ヨリ七月二十日ニ至ル

第十條 冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ一月十日迄トシ夏期休業ハ七月二十一日

ヨリ八月三十一日迄トス

諸學校

第十一條 日曜日並左ニ掲ケル祭日祝日ハ休業トス

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

第四章 試験

第十二條 試験ハ小試験中試験大試験ノ三種トス

第十三條 小試験ハ毎月末ニ於テ之レヲ施行シ其得點ノ多寡ニ應シテ中試験ノ得

點ハ増減ヲ與ヘ且生徒ノ座次ヲ定ムルモノトス

但シ砲術ハ一教科ノ終リニ於テ試験スルモノトス

第十四條 中試験ハ每學期ノ終リニ於テ之レヲ施行シ其合格者ニハ及第證書ヲ授

與スルモノトス

第十五條 大試験ハ全科修了ノ後チ之レヲ施行シ其合格者ニハ卒業證書ヲ授與

スルモノトス

第十六條 大試験及中試験ハ其得點ノ數航海運用機關ノ三科ニ於テ全點ノ五分三

砲術ニ於テ五分二其他ノ學科ニ於テ三分一以上ヲ得而シテ其得點ヲ合算シ全點

ノ五分三以上ニ至ルチ及第トス

第十七條 大試験ニ落第セシ者ハ若干月復習ヲ命シ再試験ヲ施行ス

第十八條 中試験ニ落第セシ者ハ原級ニ止メテ復習セシム

但シ貸費生落第スルコト二回ニ及フトキハ及第スル迄經費金ハ自辨セシム

第十九條 中試験又ハ大試験ノ得點數最モ多ク且平素格別ニ品行端正ノ者ニハ褒

賞ヲ附與ス

諸學校

第五章 入學

第二十條 入學ノ期ハ毎年七月ト定ム

第二十一條 入學ヲ許スヘキ者ハ左ノ三項ニ適合シ且體格檢査及學科試驗ニ合格セル者ニ限ル

第一 航海科ハ年齡十五年以上十八年以下機關科ハ十五年以上二十年以下ノ者

第二 品行端正且貳人以上ノ保證人アル者

第三 在學中家事ニ係累ナキ者

第二十二條 學科試驗ノ科目ハ左ノ如ク

第一 英學 會話 書取 和英復文 歴史及物理講義

第二 數學 算數學 代數學 幾何學

第三 和漢學 史類及文集類講義

第四 作文 記事及尺牘

第二十三條 體格檢査ハ海軍尉官及本校幹事臨席シ海軍醫官之レヲ行フ而シテ合格ノ者ニアラサレハ學科試驗ヲ行フコトナシ

第二十四條 學科試驗ハ校長及海軍尉官臨席シ本校教官之レヲ行フ

第二十五條 入學志願者ハ甲號書式ノ入學願書及乙號書式ノ學業履歷書ヲ出スヘシ

第二十六條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ丙號書式ノ醫書ヲ出シ又自費生ハ丁號書式ノ貸費生ハ戊號書式ノ證書ヲ出スヘシ

第二十七條 保證人ハ丁年以上ニシテ東京府下ニ居住シ且其府下ニ於テ地所若クハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル

第二十八條 保證人府外ヘ轉住シ又ハ地所家屋ノ所有權ヲ失シ或ハ死亡スルトキハ保證人ヲ更定スヘシ

第二十九條 保證人旅行等ヲ爲スルハ代理者ヲ立ツヘシ

第六章 退校

第三十條 生徒ハ自費貸費ヲ問ハス中途退校ヲ出願スルヲ許サス

但シ一家ノ安危ニ係ル事故アルモノハ願書ニ其事由ヲ詳記シ親族保證人連署ノ上在籍區戸長ノ奥書證印ヲ受ケ出願スルヲ得

第三十一條 生徒ニシテ左項ノ一ニ該ル者ハ直チニ退校ヲ命ス

第一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第二 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢校則ヲ犯ス者

第三 小試験ノ成績屢不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者

第四 中試験又ハ大試験ニ於テ落第三回ニ及フ者

第五 傷疾疾病ニ罹リ前途ノ目的ナキ者

第三十二條 貸費生徒ニシテ第三十條第三十一條ニ據リ退校スル者ハ其貸與金ヲ一時ニ還納スヘシ若シ本人還納シ能ハサルトキハ保證人ヨリ辨償スヘシ

第七章 自費貸費

第三十三條 自費生ハ在學中ノ經費部テ之レヲ自辨シ貸費生ハ之レヲ本校ヨリ貸

與スルモノトス

第三十四條 生徒ノ經費ハ自費貸費ヲ問ハス一箇月凡金八圓ト定ム

但シ實地派遣中食費或ハ報酬金ヲ其船舶若クハ機關場等ヨリ支給セシムヘキ定約ヲナシタル生徒ハ本條經費金ノ内若干ヲ減縮スルヲアルヘシ

第三十五條 自費生ハ毎月金八圓ヲ納ムヘシ而シテ會計年度ノ終リニ於テ收支ヲ精算シ過金アルトキハ之レヲ返附シ不足スルトキハ之レヲ納メシム

第三十六條 貸費生在學中又ハ卒業ノ後死亡シ或ハ業務上ノ爲ノ癱疾不具トナル者ハ貸與金ヲ還納スルニ及ハス

第三十七條 貸費生卒業ノ後貸與金ノ還納ヲ了ル迄本校ノ指命ニ遵ヒ船舶ニ乗組ミ若クハ之レニ關スル業務ニ従事シ毎月俸給高五分一以上ノ金額ヲ以テ其貸與

金ヲ還納スヘシ若シ本人ヨリ納附シ能ハサルトキハ保證人之レヲ辨償スヘシ但シ事故アリテ船舶ニ關セサル義務ニ従事スルトキハ其貸與金ハ一時ニ還

納スヘシ

諸學校

甲號入學願書式 用紙美濃紙堅四ツ切

入學願

私儀〔自費〕ヲ以テ〔航海〕機關學科修業志願ニ付御試験ノ上入學御許可被成下度學業履歷書相添此段奉願候也

某〔府〕〔士〕族平民

某國某〔郡〕〔區〕〔某〕〔村〕町何番地住某子弟或ハ附籍

東京府下某〔郡〕〔區〕〔某〕〔村〕町何番地寄宿或ハ某同居

年月日

何 某印
何年何月生

東京商船學校長某殿

乙號學業履歷書式 用紙美濃紙二ツ折

學業履歷書

某〔府〕〔士〕族平民某子弟或ハ附籍

何 某
何年何月生

一實地〔航海〕機關ノ業ニ從事ノ有無

一諸學校免狀所有ノ有無

一和漢學 何年何月ヨリ何年何月迄幾年間公立何學校ニ於テ某ニ就キ何々ヲ私

學フ

一數學 何年何月ヨリ何年何月迄幾年間公立何學校ニ於テ某ニ就キ何々ヲ私

學フ

一英學 正則何年何月ヨリ何年何月迄幾年間公立何學校ニ於テ某ニ就キ何々ヲ私

々ヲ學フ

右之通相違無之候也

右

年月日

何 某印

諸學校

東京商船學校長某殿

丙號誓書式 用紙美濃紙二ツ折

印紙貼用

今般私儀志願之通入學御許可相成候ニ就テハ御規則嚴重ニ相守受業勉勵可致ハ勿論卒業ニ至ルマテ決シテ退校等仕間敷且卒業ノ後ハ誓テ海軍豫備員ニ服役可仕候依テ誓約如此候也

某〔府〕〔華〕族平民

某國某〔區〕某〔村〕何番地住某子弟或ハ附籍

年月日

何 某 印

何年何月生

東京商船學校長某殿

前書何某今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則嚴重ニ爲相守且本人ニ關スル一切ノ事件ハ私共引受可申仍テ保證仕候也

某〔府〕〔士〕族平民

東京府下某〔區〕某〔村〕何番地

年月日

保證人 何 某 印

同

同

同 何 某 印

前書保證人何某者丁年以上ニシテ當〔郡區〕内ニ住シ且〔地所〕家屋ヲ有スル者ニ相違無之候也

何〔郡區〕 役 所 印

前書保證人何某者丁年以上ニシテ當〔郡區〕内ニ住シ且〔地所〕家屋ヲ有スル者ニ相違無之候也

何〔郡區〕 役 所 印

丁號自費生證書式 用紙美濃紙二ツ折

諸學校

印紙貼用

私儀自費ヲ以テ入學御許可相成候ニ就テハ諸經費金トシテ卒業迄毎月五日限
リ金八圓宛屹度上納可仕尤モ會計年度ノ終ニ於テ收支御精算ノ上過不足ヲ生
候ハ、過金ハ御返附被下不足金ハ速ニ上納可仕若シ之ヲ怠リ候節ハ保證人ヨリ
辨納可仕候依テ證書如此候也

某〔府〕〔華〕族平民

某國某〔區〕某〔町〕何番地住某子弟或ハ附籍

本人 何 某印

年月日

何年何月生

某〔縣〕〔士〕族平民

東京府下某〔區〕某〔町〕何番地

保證人 何 某印

同

同

同 何 某印

東京商船學校長某殿

本人並保證人共向後換籍轉宿又ハ改印候節ハ速ニ御届可仕候也

區郡役所ノ奥書前ニ同シ

戊號貸費生證書式 用紙美濃紙ニツ折

印紙貼用

私儀貸費ヲ以テ入學御許可相成候ニ就テハ借用經費金ノ儀ハ都テ御規則ニ遵ヒ
還納可仕萬一本人還納シ能ハサルトキハ保證人ヨリ屹度辨納可仕候依テ證書如
此候也

某〔府〕〔華〕族平民

某國某〔區〕某〔町〕何番地住某子弟或ハ附籍

本人 何 某印

年月日

三百十九

諸學校

何年何月生

某〔府〕〔華〕族平民

東京府下某〔區〕某〔町〕何番地

保證人 何 某印

同

同

同 何 某印

東京商船學校長某殿

本人並保證人共向後換籍轉宿又ハ改印候節ハ速ニ御届可仕候也

區郡役所ノ奥書前ニ同シ

○第二十五項 函館商船學校遞信省直轄トス 明治二十年十月二十八日

遞信省告示第
二百五十二號

北海道廳所轄函館商船學校明治二十一年四月一日ヨリ當省ノ直轄トシ函館商船學

校ト稱ス

○第十八節 特別認可學校規則 明治二十一年五月五日 日文部省令第三號

明治二十年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第十七條
第三項文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理
財學ヲ教授スル私立學校ニ關シ特別認可學校規則ヲ定ムルコト
左ノ如シ

特別認可學校規則

第一條 本令ニ於テ特別認可學校ト稱スルハ明治二十年七月勅令
第三十七號文官試驗試補及見習規則第十七條第三項文部大臣
ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授ス
ル私立學校ヲ謂フ

第二條 特別認可學校ハ修業年限三箇年以上ニシテ法理學法學
通論憲法行政法民法訴訟法刑法治罪法商法國際法財政學理財

諸學校

學統計學史學論理學等ノ諸學科中七科目以上ヲ學修スル爲メ一定ノ課程ヲ設クルモノタルヘシ但法律學ヲ主トスル學校ニ於テハ擬律擬判ノ課ヲ設クルヲ要ス

第三條 特別認可學校ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校卒業證書ヲ有スル者若クハ國語漢文外國語地理歷史數學ノ各科ニ就キ尋常中學校ノ程度ニ依リ試驗ヲ經テ及第シタル者ニ限ル但數學中三角法ハ之ヲ除キ代數幾何ハ其初步ニ止ムルコトヲ得

第四條 特別認可學校二年級以上ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ前條ノ資格ヲ有シ且該級生徒ノ歷修シタル各級諸科目ニ就キ試驗ヲ經テ及第シタル者ニ限ル

第五條 特別認可學校ノ入學ハ豫メ學則ニ於テ其期日ヲ定メ置クヘシ

入學試驗ヲ行フトキハ試驗期日三十日前ニ其科目及日限時間割ヲ該學校長ヨリ文部省ニ申報スヘシ

第六條 特別認可學校長ハ其入學ヲ許シタル生徒ノ族籍姓名年齡及試驗答書並評點ヲ具シテ入學期日後二十日以内ニ文部省ニ申報スヘシ但尋常中學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ其校名及年月日ヲ記載スヘシ

第七條 特別認可學校ハ每學年ノ終ニ學年試驗ヲ行フヘシ其科目及日限時間割ハ試驗期日三十日前ニ試驗成績ハ試驗後四十日以内ニ該學校長ヨリ文部省ニ申報スヘシ

第八條 特別認可學校ニ於テ最終ノ學年試驗ニ及第シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與シ其族籍姓名ハ授與ノ後十日以内ニ該學校長ヨリ文部省ニ申報スヘシ

一 學校維持法

一 學校名稱

一 學校位置

一 生徒定員

一 學校長教員履歷

前第一項ヨリ七項ニ至ル各項ノ變更並學校長教員ノ變更ハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 特別認可學校タルノ資格ヲ得タルモノト雖モ尙一般

私立學校ノ例ニ依リ地方官ノ管理ヲ受クヘキモノトス

〔參看〕二十年七月二十三日勅令第三十七號〔節取〕

朕文官試験試補及見習規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官試験試補及見習規則

第十七條 高等試験ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

一文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

○第二十六項 私立獨逸學協會學校專修科學則認可 明治二十一年

七月十二日文部省告示第三號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區西小川町一丁目十五番地私立獨逸學協會學校專修科ノ學則ヲ認可ス

○第二十七項 私立英吉利法律學校ノ學則認可 明治二十一年七月十二日

日文部省告示第四號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區錦町二丁目二番地私立英吉利法律學校ノ學則ヲ認可ス

○第二十八項 私立東京佛學校法律科學則認可 明治二十一年八月九日

日文部省告示第五號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區小川町一丁目一番地私立佛學校法律科學則認可

番地私立東京佛學校法律科ノ學則ヲ認可ス

○第二十九項 私立東京專門學校法律科學則認可

明治二十一年八月

九日文部省
告示第六號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下南豐島郡下戸塚村六百四十七番地私立東京專門學校法律學科ノ學則ヲ認可ス

○第二十項 私立明治法律學校ノ學則認可

明治二十一年八月十六日文部省

告示第七號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區南甲賀町十一番地私立明治法律學校ノ學則ヲ認可ス

○第三十一項 私立東京專修學校ノ學則認可

明治二十一年八月十六日文部省

告示第八號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區今川小路二丁目八番地私立專修學校ノ學則ヲ認可ス

○第三十二項 私立東京法學校ノ學則ヲ認可

明治二十一年九月十二日文部省

告示第九號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區小川町一番地私立東京法學校ノ學則ヲ認可ス

○第七章 圖書檢定 凡テ第一節 自第一項 至第十項

○第一節 教科用圖書檢定規則 明治二十年五月七日 文部省令第二號

明治十九年^{五月}文部省令第七號教科用圖書檢定條例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

教科用圖書檢定規則

第一條 教科用圖書ノ檢定ハ止タ圖書ノ教科用タルニ弊害ナキコトヲ證明スルヲ旨トシ其教科用上ノ優劣ヲ問ハサルモノトス

第二條 圖書ノ出版者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得
第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ地方廳ヲ經テ文部省ニ納ムヘシ但

定價ヲ記載セサル圖書ニ就テハ手数料金十五圓ヲ納ムヘシ又
檢定ヲ得タル後定價ヲ増加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差
額ヲ追納スヘシ

第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中瑣少ノ修正ヲ加フ
レハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其廉
ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱冊數定
價目的トスル學校並學科ノ種類版權免許又ハ出版屆ノ年月日
並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ヲ
廣告スヘシ

第六條 檢定ノ効力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及
ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價版權免許又ハ出版屆ノ年

月日並著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中
其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ
變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレ
ハ檢定ノ効力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定ヲ得サリシ圖書ノ出版者ノ願ニ依リテハ其圖書ノ
檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ指示スルコトアルヘシ

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加
ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

第十條 圖書ノ出版者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變
更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後其願下チナストキト雖モ其既ニ納
メタル手数料ハ之ヲ還付セサルモノトス

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文

章字句圖畫ヲ増減若クハ校訂シ又ハ字體畫形ヲ變更シ又ハ註解附録序跋ヲ加除若クハ變更スル等ノ場合ヲ包含スルモノトス

○第一項

前例ニ依リ既ニ檢定ヲ得タル圖書ノ効力

明治二十年五月

月七日文部省令第三號
明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科用圖書ハ本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則ニ依リ檢定シタルモノト同一ノ効力有スルモノトス

○第二項

中學校ノ教科用ニ充ツル圖書檢定請求方

明治二十年五月

月七日文部省訓令第六號北海道廳、府縣
管内中學校ノ教科用ニ充ツルヲ要スル圖書ニシテ未ダ文部大臣ノ檢定ヲ得サルモノアルトキハ之カ檢定ヲ請フヘシ

○第三項

小學校及中學校教科用圖書檢定申請方

明治二十年五月七

日文部省訓令第七號北海道廳、府縣

小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ヲ請フトキハ該圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二部ヲ檢定申請書ニ添ヘテ納ムヘシ

○第四項

檢定ノ効力ヲ得サル圖書變更ノ手續

明治二十年五月七日文

部省訓令第八號北海道廳、府縣

本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則第七條ノ變更アルニ會シ未ダ檢定ノ効力ヲ得サル圖書ニシテ其管内學校ノ教科用ニ充ツルヲ要スルモノアルトキハ其變更事項ノ廣告ヲ請フヘシ

○第五項

檢定未済ノ圖書教科用書ニ採用方心得

明治二十年五月七

日文部省訓令第九號北海道廳、府縣

本年三月文部省訓令第三號公立小學校教科用圖書採定方法及本年五月文部省訓令第六號發令前ニ於テ檢定未済ノ圖書ヲ以テ教科用ニ充テタル向ハ此際該圖書ノ檢定ヲ請フ儀ト心得ヘシ

圖書檢定

○第六項 教科用圖書檢定願書様式ヲ定ム

明治二十年五月七日
文部省告示第四號
本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則第二條ニ依リ教科用圖書ノ檢定ヲ請フ者ハ該圖書一種毎ニ左式ノ檢定願書ヲ差出スヘシ

檢定願書様式 用紙ハ半紙トス

教科用圖書檢定願

左記ノ圖書御檢定被成下度該圖書……部及手数料金……相
添へ此段相願候也

圖書ノ名	卷册ノ記	著譯者ノ	出版者ノ	版權免許	目的トス
稱	號員數	族籍姓名	族籍住所	又ハ出版	ル學校並
		姓名	姓名	届ノ年月	日
				類	種

何府何郡何町何番地居住(寄留)
道 縣 區 村

何府何族(平民)
縣

年月日 姓 名 印
文部大臣爵姓名殿

記載方心得

圖書ノ名稱 改正増補等ニ係ルモノハ其旨ヲ記スヘシ
 卷册ノ記號員數 一卷二卷前編後編上中下或ハ一號二號三號等ノ別ヲ掲ケ册數若クハ軸數等ノ總計ヲ記スヘシ
 著譯者ノ族籍姓名 姓名ノ下ニ著述翻譯編纂等ノ別ヲ記スヘシ
 出版者ノ族籍住所姓名 分版ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト分版者ノ族籍住所姓名トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト翻刻者ノ族籍住所姓名トヲ並記スヘシ
 版權免許又ハ出版届ノ年月日 改版ニ係ルモノハ改版ノ年月日ヲ記シ分版ニ係ルモノハ原出版ノ年月日ト分版ノ年月日トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原出版ノ年月日ト翻刻ノ年月日トヲ並記スヘシ

○第七項 教科用圖書檢定手数料勘定整理方

訓令第三號北
海道廳、府縣

明治十九年五月
二十八日文部省

圖書檢定

中學校師範學校教員免許狀授與手数料及教科用圖書檢定手数料共地方廳ニ於テ徵收ノ分ハ十九年度以降大藏省令第四號歲入取扱順序第十六條ニ據リ委託候條同順序及關令第三號歲入歳出出納規則ニ準據取扱フヘシ且教科用圖書檢定手数料ハ歲入科目第二部五款二項九目書籍發賣檢査手数料ノ次位ヘ教科用圖書檢定手数料ノ目ヲ設ケ勘定整理スヘシ

但徵收額調書ハ別段送付セヌ又本文教員免許人名並圖書名檢定出願人名等仕譯書調製歳入報告書ニ添付スヘシ

○第八項

文部省藏版書籍ハ自今悉皆翻刻ヲ差許ス

明治八年六月

五日文部省第九號布達

當省藏版書籍翻刻ノ儀ニ付テハ昨明治七年第二拾五號ヲ以テ及布達置候處當省藏版ノ書籍ハ自今悉皆翻刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以テ可願出此旨布達候事但當省藏版書目ハ可及報告候事

○第九項

文部省出版圖書ヘ註解圖書傍訓等加テ禁ス

明治十二年

年二月廿一日文部省第二號布達

文部省出版ノ圖書ヘ註解圖書傍訓等ヲ加ヘ又ハ本文ヲ増減シテ出版致シ候儀自今不相成候尤原本ノ儘翻刻致シ候儀ハ可爲從前之通候條此旨布達候事

○第十項

文部省出版圖書翻刻檢査逐ケ誤刻發賣差止方

明治十四年三月十日

文部省第壹號布達

文部省出版圖書中世上ニ於テ翻刻スル圖書ノ内誤刻有之モノ相見エ教育上ノ弊害ヲ生スル不尠儀ニ付自今翻刻ノ圖書ハ當省ニ於テ檢査ヲ遂ケ誤刻有之モノハ時宜ニヨリ其發賣ヲ可差止候條此旨豫メ布達候事

但本文翻刻圖書ハ檢査ノ爲メ入用ニ付翻刻出來次第翻刻人ヨリ當省ヘ一部納本可致候事

○第八章 雜聚

凡テ第一節

自第一項
至第八項

○第一節

學事ニ關スル廳府縣令文部省へ申報方

明治十九年
十一月十七

日文科省令第二十
號北海道廳、府縣

學事ニ關スル廳府縣令ハ其公布ノ都度文部省ニ申報スヘシ

但豫メ稟申シタル件ハ此限ニアラス

○第一項

學事年報取調條項並ニ諸表樣式ヲ定ム

明治十九
年十月十

三日文科省訓令第
九號北海道廳、府縣

學事年報取調條項並諸表樣式自今左ノ通相定ム歷年ノ調査ニ據リ翌年三月限各二
通差出スヘシ

但諸表樣式ハ別ニ配布ス

學事年報取調條項

一 管内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ概記スヘシ

雜聚

一 學區

區畫變更ノ緣由廣狹適否ノ狀況等ヲ記載スヘシ

二 學齡兒童就學

就學兒童増減ノ原由及就學督責ノ實施其他學齡就學ニ係ル總テノ狀況方法等ヲ記載スヘシ

一 小學校

公私立學校設置廢止ノ緣由諸般ノ準備生徒修業ノ狀況其他父兄ノ職業ニ關シ在學ノ長短學業進否ノ趣ヲ異ニスル等ノ事項ヲ記載スヘシ

二 小學校教員

教員ノ資格待遇ノ狀況需用供給ノ關係等ヲ記載スヘシ

二 中學校

公私立學校設置廢止ノ緣由教員ノ資格生徒ノ増減及學業ノ進否〔等級人員卒業生ノ數等ハ可及的精密ヲ要ス〕生徒卒業後ノ狀況等ヲ記載スヘシ

一 師範學校 附教員講習所等

教員ノ資格生徒養成ノ狀況學業ノ進否〔前ニ同シ〕並教員講習所ノ設置小學督業ノ配置其他授業法ノ改良ニ係ル方法等ヲ記載スヘシ

一 專門學校

學校設置廢止ノ緣由教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減學業ノ進否〔前ニ同シ〕其他該學藝ニ關スル教育ノ現狀ヲ觀察スルニ足ルノ條項ヲ記載スヘシ

二 高等女學

學校設置廢止ノ緣由教員ノ資格生徒ノ増減學業進否ノ狀況等ヲ記載スヘシ

一 各種學校

學校設置廢止ノ緣由教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減學業進否ノ狀況等ヲ記載スヘシ

一 教科用圖書

教科用圖書ノ適否需用供給ノ關係等凡教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ

一 幼稚園

幼稚園ノ現況及學齡未滿幼兒ノ保育ニ係ル方法狀況等ヲ記載スヘシ

一 書籍館及教育博物館

書籍館及教育博物館ノ現況並將來設置ノ方法其他開館日數閱覽人ノ増減等ヲ記載スヘシ

一 公學資

府縣立町村立學校等經濟ノ要領授業料徵收ノ方法寄附金ノ増減收支ノ方法費金ノ豐歉學校資財増減學資蓄積等總テ學校維持並理財上ノ得失ニ係ル事項ヲ記載スヘシ

一 府縣會區町村會

教育費ニ係ル議事ノ梗概ヲ記載スヘシ

一 教育會

組織並議事ノ梗概ヲ記載スヘシ

一 學事關係職員

學務課吏員及學務擔任郡區吏戸長等凡學務關係職員事務ヲ措辨スル總テノ狀況及方法等ヲ記載スヘシ

一 學事監督及獎勵

學務官吏巡視監督ノ狀況並教員生徒等獎勵ノ要領ヲ記載スヘシ

一 將來學事施設上須要ノ件

一 其他學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ

● 神奈川縣問合 (十九年十月二十九日)

今般學事年報諸表用紙御配付相成候處右ノ内小學校ノ種別等本縣ニ於テハ豫テ經伺濟ノ上來學期ヨリ實施ノ積リニ付テハ本年末調査ノ儀ハ現ニ各學校規定ノ

雜聚

學期ニヨリ八箇年學期ノ小學校ハ高等科ニ七箇年以下三箇年以上ノ學期ノ小學校ハ尋常科ニ擬當ノ上夫々記入シ可然哉
分校モ學校數ニ算入スヘキ儀ニ候哉果シテ然ラハ分校ノ如キ何レモ本校ト聯絡ヲ通シ一二箇年學期乃至六箇年學期ヲ教授スルモノニシテ其一二箇年ニ止ルモノモ別ニ簡易ノ教授ヲ爲スモノニ非サレハ是亦尋常科ニ擬當シ可然哉又ハ分校ハ學校數ニ算入セサル儀ニモ可有之哉

○文部省總務局回答 (十九年十一月十日)

學事年報取調方ノ儀前段御意見ノ通後段分校ノ儀三箇年以上ノ學期ヲ設ケ一學校ノ體面ヲ具有スルモノハ尋常科ニ擬當シテ學校數ニ算入シ同シク分校ト稱スルモ其實分教場ノ如キモノハ本校ヘ合算可然

●宮崎縣問合 (十九年十二月七日)

學事統計表小學校ノ欄卒業生徒トハ某科ヲ卒ヘタルモノニシテ其年中ニ退學シタルモノヲ指シタル儀ナリヤ又退學ト否トヲ問ハス其年中ニ其科ヲ卒業シタルモノヲ指シタル儀ナル儀ナリヤ

ルモノヲ指シタル儀ナルヤ

○文部省總務局回答 (十九年十二月九日)

小學校卒業生ノ件ハ後段御意見ノ通

○第二項 私立學校官立學校同等ト思考スル時稟申方

治明

十九年三月三十一日文部省訓令第五號北海道廳、府縣

區町村立私立學校ニシテ徵兵令第十一條第十二條第十八條第二項第十九條第二十条第三項第五項官立府縣立學校同等ノ學校ト認ムヘキモノハ左記ノ事項ニ該當スルヲ要スル儀ニ付該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ其狀況ヲ稟申スヘシ

- 一 入學ノ生徒ハ尋常中學校ノ如キ成規アルモノヲ除クノ外高等小學校卒業ノモノ若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スルモノタルヘキ事
- 一 學校長及教員任免ノ方法一定確實ナル事
- 一 授業料東脩等ノ如キ豫メ確定シ難キ收入金ヲ除キ毎年ノ費金中貳千四百圓以上

雜案

ハ全ク資本ノ利子ト認メ得ヘキモノアル事

(參看) 十六年十二月二十八日第四十六號布告徵兵令摘錄

第十一條 年齡滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校及ヒヲ除ク及ヒ

文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等

ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ

全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校小學校及ヒヲ除ク及ヒ

文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ

其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十八條 云々

第二項 官立府縣立學校小學校及ヒヲ除ク及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ

卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第十九條 官立府縣立學校小學校及ヒヲ除ク及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ニ

於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六箇年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 云々

第三項 官立公立學校及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校教員

第五項 官立府縣立醫學校及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ卒業

證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

○第三項 私立獨逸學協會學校官立學校同等ト認定ス

二十年四月四日文部省告示第一號

東京府下神田區西小川町一丁目十五番地私立獨逸學協會學校ノ儀ハ今般徵兵令第

十一條第十二條第十八條第十九條第二十條第三項官立府縣立學校同等ノ學校ト認

定ス

○第四項 私立熊本濟々醫官立府縣立學校同等ト認定ス

明治二十年十月廿日文部省告示第十一號

雜聚

熊本縣下熊本區高田原相撲町十二番地私立濟々費ノ儀ハ今般徴兵令第十一條第十二條第十八條第十九條第二十條第三項官立府縣立學校同等ノ學校ト認定ス

○第五項 私立尋常大村中學校官立學校同等ト認定ス

明治

二十一年三月十六日
文部省告示第一號

長崎縣下東彼杵郡大村百十二番地私立尋常大村中學校ノ儀ハ今般徴兵令第十一條第十二條第十八條第十九條第二十條第三項官立府縣立學校同等ノ學校ト認定ス

○第六項 學校職員及ヒ郡區書記戶長等ニ旅費支給方

明治

二十年六月十四日內務
省訓令第三十七號府縣

明治十九年勅令第六十五號同年閣令第三十五號ノ學校職員及ヒ郡區書記戶長等國庫費支辨ニ屬スル用務ヲ以テ旅行セシムルトキ學校職員ハ其奏任待遇ヲ受ケルモノ年俸千圓ニ改算ス 已上ハ三等旅費年俸千圓未滿ハ四等旅費列任待遇ヲ受ケルモノ月俸四十圓ニ改算ス 已上ハ五等旅費月俸四十圓未滿ハ六等旅費郡區書記戶長ハ其官等^{准官}相當旅費ヲ同年閣令第十四號內國旅費規則ニ依リ支給スヘシ

○第七項 內國旅費規則ヲ定ム

明治十九年六月八日閣令第
十四號同年同月九日布告

內國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治九年大政官第六十四號達旅費定則中內國ノ部ハ廢止ス

內國旅費規則

第一條 內國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第二條 內國旅費ハ各官等ニ依リ分テ六等トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ瀛車瀛船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ管内外ニ區別シ之ヲ支給ス

第三條 瀛車賃ハ瀛車旅行、瀛船賃ハ瀛船旅行、車馬賃ハ陸路旅行、日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行ノ性質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ本令ノ瀛車賃瀛船賃

及車馬賃ヲ支給セス

第五條 漚車賃ハ哩數、漚船賃ハ海里數、車馬賃ハ里數、日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ

外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セス

第六條 赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルトキハ其路程ハ管外ニ準シ又管内巡回ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管内ニ準スヘシ

第七條 日當ハ陸路六里未滿、漚車十哩未滿及漚船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

第八條 漚車賃漚船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ但其一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但漚車賃及漚船賃ハ會計年度ニ係ハラス漚車漚船ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ

之ヲ區別シテ計算スヘシ

第十條 檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給セス日當額ニ三割ヲ増給スヘシ

第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本官相當ノ車馬賃漚車賃若クハ漚船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十二條 廢官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ漚車旅行

ハ一日二百哩詰、瀛船旅行ハ一日百海里詰、陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近シテ數種ノ旅行ニ跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額ヲ定メ月額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

第十九條 〔本條二十年閣令第
十七號ヲ以テ削除〕

第二十條 陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムヘシ〔本條中〔武官〕ノ下〔文官〕ノ二字
二十年閣令第六號ヲ以テ追加ス〕

第二十一條 神官及雇員其他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

別表

旅 費 額

等 級	瀛車賃	瀛船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一 等 親 任 官	一哩每 金拾五	每二海里 金拾五	一里每 金五拾	一里每 金三拾	一日每 金四圓	一日每 金三圓
二 等 勅 任 官	一哩每 金拾貳	每二海里 金拾貳	一里每 金四拾	一里每 金貳拾	一日每 金三圓	一日每 金貳圓
三 等 奏 任 官	一哩每 金九錢	每二海里 金九錢	一里每 金貳拾	一里每 金拾六	一日每 金貳圓	一日每 金壹圓
四 等 奏 任 官	一哩每 金九錢	每二海里 金九錢	一里每 金貳拾	一里每 金拾貳	一日每 金壹圓	一日每 金壹圓
五 等 判 任 官	一哩每 金六錢	每二海里 金六錢	一里每 金拾四	一里每 金八錢	一日每 金九拾	一日每 金七拾
六 等 判 任 官	一哩每 金六錢	每二海里 金六錢	一里每 金八錢	一里每 金六錢	一日每 金七拾	一日每 金五拾

○第八項 內國旅費規則附則追加

明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニ附則ヲ追加スルコト左ノ如シ

明治十九年十二月二十三
日閣令第三十四號各官廳

内國旅費規則附則

第一條 北海道廳、沖繩縣、東京府小笠原島廳、長崎縣對馬島廳、鹿兒島縣大島島廳所轄地及東京府管轄伊豆七島内ハ管内巡回ト雖モ管外旅行ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二條 北海道廳、沖繩縣管轄内ハ車馬賃ニ限リ管外額ノ五割以内ヲ増給スルコトヲ得
但北海道廳管轄内ハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテ五箇月間車馬賃ニ限リ管外額ノ二倍以内ヲ増給スルコトヲ得

第三條 各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通知スヘシ

版權登錄

教育學事提要 大尾 必携

明治二十一年十月廿六日印刷

明治二十一年十一月二日出版

明治廿二年一月九日增補出版

定價金四角

大分縣士族

著作
發行
者兼

下司 盛吾

東京府平民 藏田仙之助

同京橋區元數寄屋町四丁目貳番地

司法省御用書肆

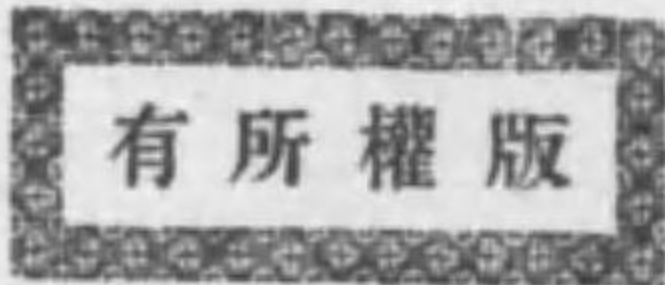
忠愛社

東京府京橋區八官町拾九番地

司法省御用書肆

博聞社

東京府京橋區銀座四丁目壹番地



印刷者

發行所

發行所

20

1

135

終